京都市内遺跡試掘調査概報

平成16年度

2005年3月

京都市文化市民局

写真１　史跡西寺跡食堂院南門及び南面東回廊遺構検出状況（北から）

写真２　仁和寺院家跡１区土壙６検出状況（西から）

ご あ い さ つ

山紫水明の都・京都市は，世界に誇る数多くの貴重な文化遺産に恵まれた歴史都市であります。市内には多くの「埋蔵文化財包蔵地」があり，古代から近世までの時代毎に積み重なった遺跡は，我が国の歴史や文化の成り立ちを知ることができる国民共有の貴重な財産であり，将来の日本文化の向上発展の基礎を成すものです。先人が残した埋蔵文化財を引き継いだ私たちには，それらを後世に伝え残していく責務があります。

しかしながら，近年，埋蔵文化財包蔵地内において土木工事等による開発がすすみ，埋蔵文化財の保護に重大な影響を及ぼしかねない状況です。こうした中，本市では，「開発」と「保存」の両立をしっかりと行いながら，貴重な文化財の保護に取り組んでおります。

さて，このたび，平成１６年度に本市が文化庁の国庫補助を得て実施した埋蔵文化財調査の結果をまとめた概要報告書を作成致しました。調査のうち，試掘調査は京都市埋蔵文化財調査センターが実施し，発掘調査及び立会調査は，財団法人京都市埋蔵文化財研究所へ委託して実施したものであります。

各調査の実施に当たり，御理解と御協力を賜りました市民の皆様をはじめ，御指導・御助言を賜りました関係機関の皆様に深く感謝申し上げますとともに，本報告書が京都の歴史を知り，理解を深めるために，お役に立てば幸いに存じます。

平成１７年３月

京都市文化市民局長
柴　田　重　徳

例　言

1　本書は，京都市が文化庁の国庫補助を得て実施した平成 16 年度の京都市内遺跡試掘調査概要報告書である。平成 16 年 1 月から 12 月まで実施した試掘調査のうち，重要な成果のあったものを対象に概要を報告している。ただし，試掘調査の結果，発掘調査を指導したものについては，発掘調査報告書を待つこととし，一覧表にのみ掲載している。

2　試掘調査を実施した全地点の地区・所在地・調査日・調査概要については，試掘調査一覧表に掲載（36 ～ 40 頁）している。なお，各章表題末尾の番号と調査一覧表の番号並びに図版の番号は対応している。

3　本文の執筆分担は，本文の末尾に記している。

4　本書に使用した地図は，本市の都市計画局発行の都市計画基本図（縮尺 1/2,500）を複製して調整したものを掲載している。なお図版に使用した地図の縮尺は以下のとおりである。

　図版 1 ～ 13　1/8,000　　図版 14 ～ 19　1/10,000

5　本書に使用した土壌色名は，農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帳』に準じた。

6　遺物整理にあたっては，岩本淳子・上茶谷美保・守山義幸・中島ゆきの協力を得た。

7　調査及び本書作成は京都市埋蔵文化財調査センターが担当し，次の機関の協力を得た。

　京都市文化市民局文化部文化財保護課・㈶京都市埋蔵文化財研究所

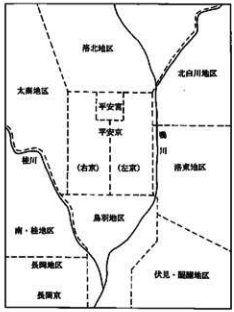


図 1　調査地区割図

目　次

Ⅰ	試掘調査の概要	1
Ⅱ	平安京右京	3
1	三条一坊四町跡（中京区西ノ京小倉町 10-1）	3
2	史跡西寺跡・唐橋遺跡（南区唐橋西寺町 52，53）	6
Ⅲ	その他市内遺跡	10
1	仁和寺院家跡（右京区常盤古御所町 8，8-5，8-6，8-7，8-8，8-9 他）	10
2	史跡名勝嵐山（右京区嵯峨鳥居本化野町 12-29）	17
3	上京遺跡（上京区寺町通今出川上る二筋目西入北横町 360 他）	20
4	鳥羽離宮跡・鳥羽遺跡（伏見区竹田田中殿町 86）	23
5	下鳥羽遺跡（伏見区下鳥羽西芹川町 44，45）	25
6	福西 4 号墳（西京区大枝東長町 1-233，1-296）	28
7	長岡京跡・淀城跡（伏見区淀池上町 38，39 合併，151-21，40-1 他）	32
Ⅳ	試掘調査一覧表	36
	報告書抄録	41

図 版 目 次

図 版 1　平安宮跡
図 版 2　左京　北辺・一・二・三条　一・二坊
図 版 3　左京　北辺・一・二・三条　三・四坊
図 版 4　左京　四・五・六条　一・二坊
図 版 5　左京　四・五・六条　三・四坊
図 版 6　左京　七・八・九条　一・二坊
図 版 7　左京　七・八・九条　三・四坊
図 版 8　右京　北辺・一・二・三条　一・二坊
図 版 9　右京　北辺・一・二・三条　三・四坊
図 版 10　右京　四・五・六条　一・二坊
図 版 11　右京　四・五・六条　三・四坊
図 版 12　右京　七・八・九条　一・二坊
図 版 13　右京　七・八・九条　三・四坊
図 版 14　史跡名勝嵐山・草木町遺跡・太秦馬塚町遺跡・常盤東ノ町古墳群・村ノ内町遺跡・仁和寺院家跡・清凉寺境内・御堂ヶ池古墳群・寂光院境内・福西古墳群・植物園北遺跡
図 版 15　上京遺跡・相国寺旧境内・大宮北山ノ前瓦窯跡・大報恩寺境内・御土居跡・法興院跡
図 版 16　山科本願寺南殿跡・山科本願寺跡・中臣遺跡・大塚遺跡・おうせんどう廃寺跡・史跡随心院境内・史跡醍醐寺境内
図 版 17　伏見城跡・中久世遺跡・大藪遺跡・淀城跡・長岡京跡・木津川河床遺跡
図 版 18　鳥羽離宮跡・下鳥羽遺跡
図 版 19　長岡京跡

表 目 次

表1　年次別試掘調査実施件数表　1
表2　1区土壙13出土土器口縁部破片点数　13
表3　試掘調査一覧表　36～40

Ⅰ　試掘調査の概要

1　試掘調査の目的

京都市内には約660箇所以上にのぼる周知の埋蔵文化財包蔵地（以下，「遺跡」という。）が所在している。中でも平安京跡や長岡京跡，伏見城跡といった広大な都市遺跡が現在の市街地と重複しており，各種土木工事等による遺跡への影響が恒常的に発生している。京都市ではこれらの遺跡内で実施される各種土木工事等に対し，文化財保護法第57条の2及び3に基づく届出・通知（以下，「届出・通知」という。）の内容と遺跡の重要度に応じて，発掘調査・試掘調査・立会調査・慎重工事の4種の指導を行っている。中でも，試掘調査は一定規模以上の工事に対し原則的に全て実施され，その結果をもって発掘調査の要否を判断することになっており，本市の文化財保護行政上重要な位置を占めている。

2　平成16年の試掘調査

平成16年1月～12月に京都市埋蔵文化財調査センター（以下，「センター」という。）へ提出された届出・通知件数は961件を数え，バブル崩壊以後最低であった平成14年（888件）以後，小幅ながら2年連続で増加している。これらの届出・通知に対しセンターは，発掘調査17件（前年比1件増），試掘調査106件（同34件増），立会調査512件（同7件減），慎重工事326件（同3件減）の指導を行った。

平成15年以前に試掘調査指導済みであった分や史跡・名勝の調査を含め，平成16年に実施した試掘件数は103件である。これは試掘調査がセンター直営となった平成3年以後，件数の

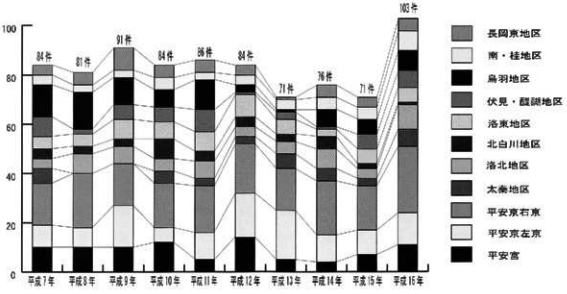


表1　年次別試掘調査実施件数表

ピークであった平成６年（100件）を越えて過去最高である。これには一昨年の遺跡地図改訂により遺跡範囲が拡大したことも一因としてあるが，それよりも経済的動向の方が大きく影響していると見受けられる。特に好調とされる共同住宅の建築が多く，その中でも中規模以下の建築が多いようである。

本年はその試掘調査の結果を受け，13件が発掘調査，４件が試掘調査の延長，３件が設計変更による遺跡保存，１件が来年度再試掘の行政指導となった。なお，発掘調査を指導したものについては，その後事業の見直し等がなされている場合もあり，また試掘調査を経ずに当初より発掘調査を指導したものもあるため，発掘調査実施件数とは一致しない。

3　各地区の調査

センター及び財団法人京都市埋蔵文化財研究所では，便宜上京都市内を11の地区に区分している（図1）。平成16年の試掘調査件数をこの地区別にみると，平安宮地区11件，平安京左京地区13件，平安京右京地区27件，太秦地区７件，洛北地区10件，北白川地区１件，洛東地区６件，鳥羽地区８件，南・桂地区７件，伏見・醍醐地区８件，長岡地区５件である。右京地区は毎年試掘の多い地区であるが，大規模小売店の進出や街路の整備により特に増加している。また，新しく周知した遺跡によって洛北地区での試掘件数が増えたほか，南・桂地区で史跡名勝嵐山の試掘が多かったことも今年の特徴である。

上記のとおり試掘後に発掘調査を指示したものは13件で，うち９件が16年中に発掘調査を実施している。以下発掘成果のうち主なものを挙げる。左京地区ではNo.30地点で弥生時代の溝や平安時代の建物跡を，No.34地点では中世の土壙・柱穴多数を検出し，ともに附近一帯では顕著な調査例となった。右京地区ではNo.４地点の平安時代の井戸から呪術用の人形が出土したことが注目される。洛北地区では昨年から周知された上京遺跡において，室町幕府管領細川家の分家に当たる細川典厩家に関わると見られる遺構が確認された。また大報恩寺（千本釈迦堂）にも今回初めて調査の鍬が入った。

発掘調査の指示には至らなかったものの顕著な遺構を認めたものや，建物基礎深度の設計変更等により当面保存が図られたものについては，本書本文において報告している。しかし紙幅の都合により省かざるをえなかったものもある。No.31地点は平重盛の小松殿推定地で，全体として遺構密度は低かったが，平安時代の土壙や時期不詳の溝を検出した。No.44地点では弥生～古墳時代の土壙・溝を認めたが，計画建物の基礎が遺構に達しないため発掘は見送っている。No.68の大宮北山ノ前瓦窯はこれまで瓦が採集されているだけだったが，今回瓦とともにロストルの破片が出土し，近傍に平窯があったことの物証を得た。No.72の上京遺跡では大部分が攪乱ながら中世の集石遺構１基を検出。鳥羽離宮跡No.89地点では，鳥羽法皇の御所である田中殿関連と見られる建物地業を検出し，長岡京跡No.99・100でも弥生時代と長岡京期の遺構を認めたが，いずれも工事掘削の深度に配慮することによって遺構保存への協力を得ている。

（堀　大輔）

Ⅱ-1　平安京右京三条一坊四町跡　№36

1　はじめに

調査地は千本三条の西側で，中京区西ノ京椋尾町に相当するが，二条駅を中心に近年区画整理がすすめられている地区内に位置しているため，現在は西ノ京小倉町10-1の仮地番が付けられている。遺跡としては平安京右京三条一坊四町跡にあたり，平安時代前期には右大臣藤原良相の西三条第があったと推定（同坊の六町，十三町とする説もある）される所で，「百花亭」とも呼ばれていた。ここに事務所併用の工場が計画されたため，平成16年4月26日に試掘調査を実施した（1～3トレンチ）ところ，平安時代の園池の一部と思われる島状遺構と池の汀部分が良好に遺存していることがわかった。今回の建物基礎は，遺構面までは達しないものの，一部保護層が設けられないところもあるため，その箇所を中心に5月13日に再調査を行い（4・5トレンチ），この島状の遺構が南西方向へ舌状に延びることを確認して試掘調査を終了した。

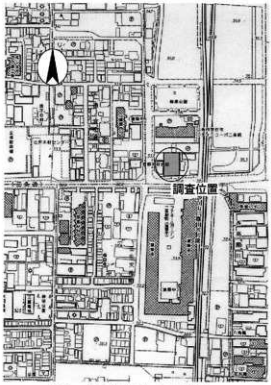


図2　調査位置図（1:5,000）

2　遺　構

敷地中央を南北方向に設定した1トレンチで堆積状況を観察すると，まず表土・石炭ガラ及び耕作土が地表（GL）下約0.9mまであり，耕作土の下層には黄褐色砂泥層が堆積する。トレンチ中央付近では，この黄褐色砂泥層の直下で，にぶい黄褐色砂礫層の地山を検出した。地山はトレンチ中央部付近で島状に盛り上がっており，その北側及び南側の低い箇所には黒褐色砂泥層が堆積する。これは池に沈殿する堆積層であり，瓦・土師器とともに箸や板などの木製品が出土している。池底の状態は，南側では灰色粘土層の地山直上に，直径3cm前後の河原石を丁寧に敷き詰めていたが，北側では地山の粘土層が池底になっている。島状遺構の続きを追うべく設定した2トレンチでは，島状の高まりはみられなかったものの，1トレンチで検出した島状遺構の続きと考えられる位置において，地山の色調に黄褐色と灰色の違いが検出されている。また，4トレンチでは，島状遺構の北東ラインが検出され，舌状の形態がほぼ確定的となった。5トレンチは部分的に深く掘り下げるエレベーターピットの位置に設定した南北トレンチで，全体が池状の堆積であることが確認された。なお，3トレンチは石炭ガラが深く堆積しており，急激に水が溜っ

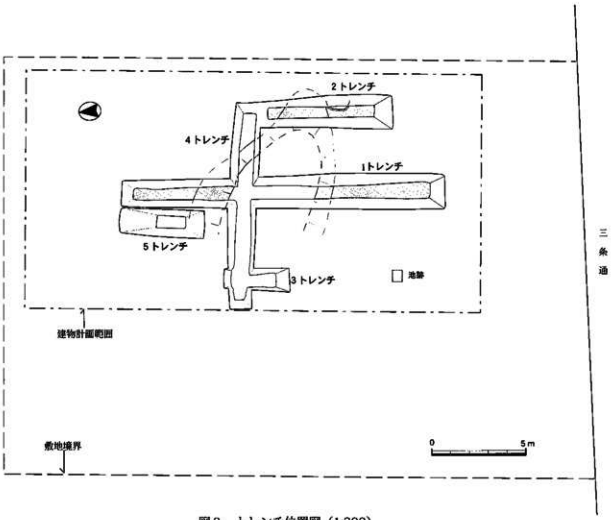


図3　トレンチ位置図（1:200）

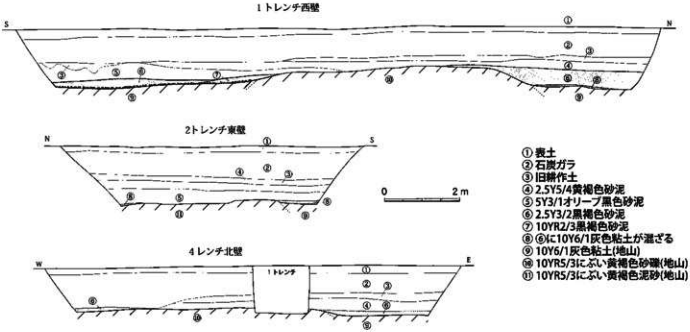


図4　各トレンチ土層断面図（1:100）

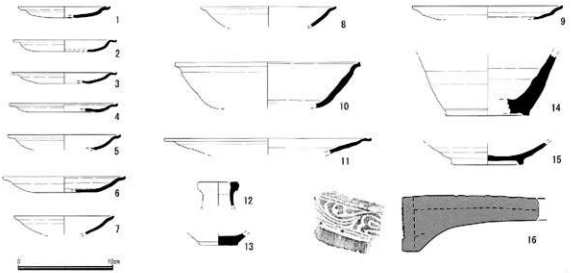


図５　出土遺物実測図（1:4）

たため，断面観察ができなかった。

遺構面までの深さは，島状遺構の最も高いところで，GL-1.05m で，池底の最も深いところでは GL-1.6 m であった。

3　遺　物

出土遺物の内，図化できるものを掲げた。２～５はあげ土から回収した土師器であるが，他はすべて池埋土の黒褐色砂泥層から出土したものである。１～９・11 は口縁部が「て」の字状に折れ曲がる土師器皿で，10 は杯，13 は白色土器の底部である。12・15 は灰釉陶器であるが，15 の椀内面には漆が薄く付いており，底部外面には墨を塗られた痕跡を認める。14 は須恵器の壺底部である。16 の瓦は均整唐草文軒平瓦で，東山区の大谷高等学校構内で発見された池田瓦窯出土瓦と同文である[1]。これらの出土遺物は 10 世紀代のものと考えられる。

4　まとめ

調査の結果，平安時代中期の遺物を伴う池の遺構及び池の中に作られた島状遺構を検出した。また，全域ではないものの，一部には池の底面に河原石を敷き詰めた状況を確認した。これらの遺構は，貴族などの邸宅における庭園遺構と判断されるものである。

（北田栄造）

註

1）大谷高等学校法住寺殿調査会『大谷中・高等学校校内遺跡発掘調査報告書』1984 年

Ⅱ-2　史跡西寺跡・唐橋遺跡　No.59

図6　調査位置図（1:5,000）

1　調査経過

調査地は，西寺児童公園の北側に位置する南区唐橋西寺町52，53である。当該地は史跡西寺跡指定地内の食堂院推定地となっているが，ここにアパート新築が計画されたため，遺構の状況確認を主眼として，平成16年9月8日に本市文化財保護課と共同で試掘調査を実施した。調査面積は51㎡である。

調査地の西隣地は昭和37年に府教育委員会が主体となって調査を実施し，食堂院の食堂・回廊・南門の遺構を検出している[1]。その成果により，本敷地南寄りで南門の東辺が検出されることが予想されたため，調査の重点をこの附近におき，北側はトレンチ調査にとどめた。その結果，予想どおり南門等の遺構を検出したが，保存を前提としていたため平面検出のみで調査を終えた。

2　層序と遺構

層序　上層から順に，現代盛土・灰黄褐色泥砂・地山というのが当該地の基本層序である。灰黄褐色泥砂層には瓦の小片が含まれる。地山は茶色～茶褐色で地点によって微妙に土質が異なる。また，上記の土層の他に南門北側では暗褐色泥砂の整地層が地山直上に存在し，南門及び回廊の基壇上では地山が，基壇の外ではこの整地層が遺構面になる。現地表（GL）から遺構面までの深さは基壇上で23㎝，基壇外で26～34㎝である。既存の木造住宅の排水施設等によって一部攪乱を受けているが，概して遺構の残りは良好であった。

礎石据付跡1・2　調査区の西寄りで南北に並んで検出された。北側の1は長軸2.0m，短軸1.55mの楕円形，南側の2は一辺1.9mほどの隅丸方形を呈する。2の横にあった現代攪乱壙を利用して断面を観察したところ，深さは0.2m以上あり，埋土に拳大の花崗岩片を含んでいた。これらは食堂院南門の北東隅柱と東中央柱に該当すると考えられる。

礎石据付跡3・4　調査区の東寄りで南北に並んで検出された。平面形は直径1.3mほどの円形になると推定でき，据付跡1・2に比して一回り小さい。食堂院南面東回廊の柱に該当する。

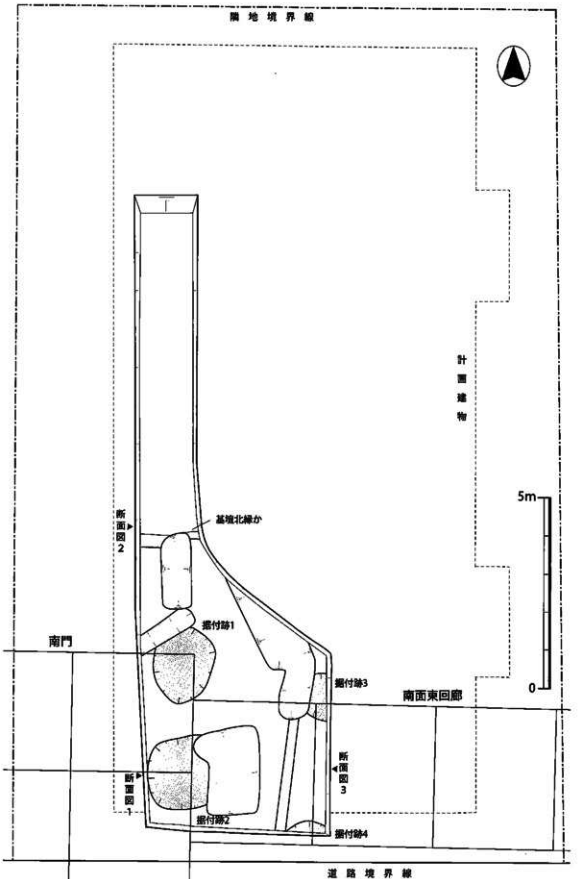


図7　遺構平面図（1:100）

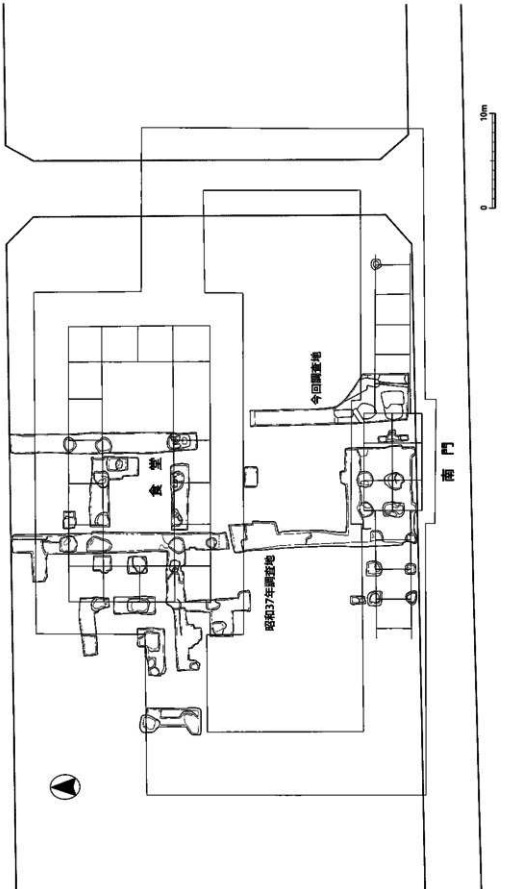


図８　食堂院復元図（1:400，註２文献所載図をもとに作成）

基壇　南門基壇について昭和37年の調査では明確な遺構を見出せず，「柱真より，約1m離れたところに礫の散布されたような列があらわれ，それが雨落ちとなっていたらしく，従って，基壇を形成する礎は作っていなかった。」「門や廊には基壇がつくられていなかった。」と解釈に苦心している[2]。実際この解釈については，雨落ちとされるものがあまりに南門北辺柱筋に近接すること，南門では礎石が残っておらず，その厚みを想定すると多少なりとも基壇を必要としたであろうことの2点で疑問が残る。

今回の調査では，北辺柱筋の北約3mで10数cmながら遺構面が段差をもつ状況を確認した。3mという幅は建物の軒の出としては適当な長さであり，食堂のそれが3.1m程度と推定されていることとも矛盾しない。したがって，この段差を基壇北辺と推定しておきたい。なお，「礫の散布されたような列」については，下層の砂礫層をそれと見た可能性がある（図9 断面2参照）。

図9　土層断面図（1:20）

3　まとめ

食堂院については，昭和37年調査の時点で建物配置の復元が行われているが，今回の調査成果はその時の案と基本的に矛盾しないものである。改めて復元規模を記述すると，南門は八脚門で桁行3間（中央間4.17m=14尺・脇間3.2m=10.75尺）・梁間2間（柱間3.13m=10.5尺）である。本来は基壇が存在したと考えられるが既にほとんど削平されている。回廊は単廊で桁行柱間3.2m（10.75尺），梁間3.72m（12.5尺）である。

なお，今回の調査終了後に事業主側と文化財保護課との間で協議が行われ，検出した遺構については盛土と基礎設計の変更によって保存が図られることになった。

（堀　大輔）

写真3　南門・回廊検出状況（南から）

註

1）杉山信三「西寺跡発掘調査概要」（京都府教育委員会『埋蔵文化財発掘調査概報 1964』1964年）

2）鳥羽離宮跡調査研究所『史跡西寺跡』1979年，p.43，p.47

Ⅲ-1　仁和寺院家跡　№63

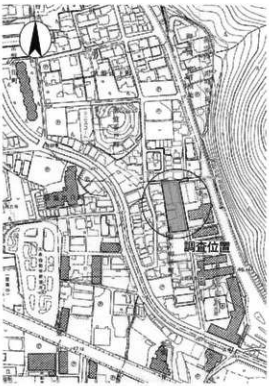


図10　調査位置図（1：5,000）

1　調査経過

調査地は葛野中通と御室川の中間に位置する南北に長い敷地で，仁和寺院家跡に含まれている。特に当該地は応仁の乱後，正保3年(1646)まで仁和寺本坊として機能し続けた真光院境内[8]ないし，その南側にあった南勝院境内[9]と考えられることから，宅地造成に先立ち平成16年4月19日に試掘調査を実施した。住所は右京区常盤古御所町8他で，計画道路部分に3箇所の調査区を設定した結果，敷地北端部の調査区で中世に遡る土壙や溝等を良好な状態で確認することができた。しかし，当該部分の保存が困難であることから，同年5月19日，21日，27日に記録保存のための調査を実施し，溝状遺構4条，土壙7基，小穴6基を検出した。調査面積は3区合計で67㎡である。

2　遺　構

1区　北端に設定した調査区で遺構検出深度は現地表下0.4 m，地山の検出深度は現地表下0.7 mであった。その複雑な切り合い関係から，大きく7期に分かれる遺構を確認した。指標とする遺構の時期から，現代攪乱の土壙3，耕作溝である溝1，土壙6，土壙13，溝2，溝12と続き，縄文土器の小片を含む溝14の時期となる。ここでは，院家地区の区画の可能性をもつ溝2，石列を内部に持つ土壙6，そして大量の遺物が出土した土壙13について記述する。

溝2　東西9.3 m以上，南北0.8 m以上，深さ0.4mを測り，調査区西端から東へ4.3 mのところで収束する。1区を南側に拡張したものの，土壙13と土壙6による削平を受けており，溝の幅を確定することはできなかった。

土壙6　南北2.5 m以上，東西4.0 m，深さ0.6 m以上の楕円形の遺構で，埋土は4層に分かれる。土壙掘形から0.4 m内側で拳大の礫を2～3列，1～2段に並べた石列が円形に巡っている。石列の東西幅は2.3 mあるが，全形ならびにその性格は不明である。

土壙13　南北1.8 m，東西2.7 m，深さ0.6 mの楕円形の土壙で，埋土は4層に分かれる。遺物は全ての埋土で認められるものの，最上層の黒褐色泥砂層中から大量の遺物が出土した。遺構同士の切り合い関係から溝2よりも新しく，土壙6より古いが，出土遺物からは明確な時期差

は認められない。また，土壙 13 と同時期と考えられる遺構には土壙 4，土壙 16，小穴群がある。

2区　南北方向の計画道路北端部に設置した南北 12.5 m×東西 1.2m の調査区である。地山の検出深度は 0.4 mから 0.5 mと浅いことから，調査区全体に攪乱が及んでおり，黒褐色泥砂の埋土をもつ小穴 2 基と土壙 1 基を検出することができたのみである。

3区　南北方向の計画道路南端に設定した南北 11.1 m×東西 1.2 m調査区である。地山の検出深度は 0.3 m～ 0.6 mと浅く，わずかに小穴 1 基と土壙 1 基を検出することができたのみである。遺構の多くは既に削平されたと考えられ，特に南端部では大規模な攪乱により，地山も大きく削り取られた状態であった。

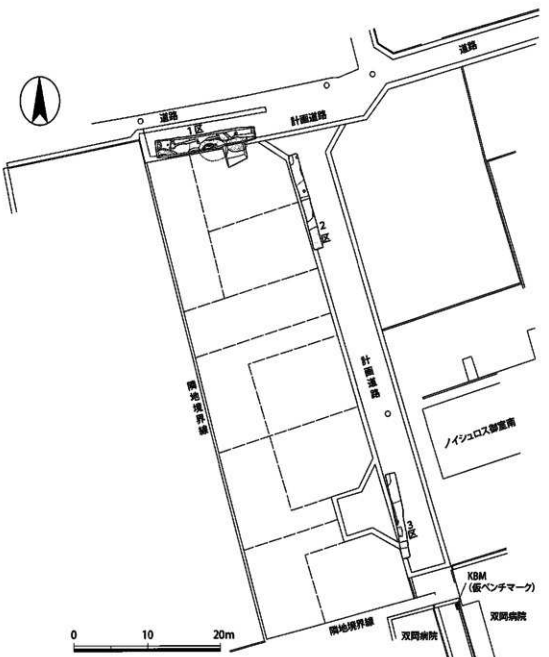


図 11　調査区位置図（1：500）

3　遺　物（土器：図版 15，瓦：図版 16）

1 区では遺物コンテナ 8 箱分の遺物が出土した。土器・陶磁器の口縁部の総破片数 2,311 点の内，2,195 点は土壙 13 から出土している。瓦も 1 区で出土した 40 点の破片の内，34 点が土壙 13 から出土している。遺物の集中が認められるこの土壙 13 と石列を伴う土壙 6 の出土遺物について詳述する。

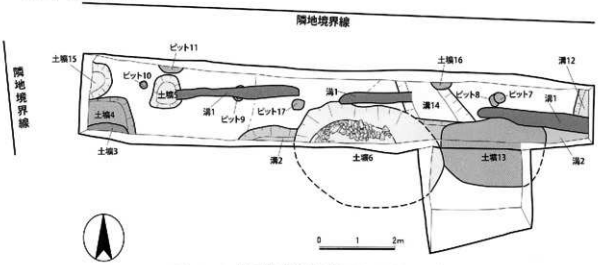
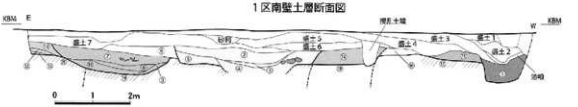


図 12　1 区拡張後遺構検出状況平面図（1：100）



盛土1　2.5Y4/2　暗灰黄色混砂(現代，ビニール袋片)
盛土2　10YR4/4　褐色混砂(近現代)
盛土3　10YR6/1　褐灰色混砂(小礫含む)
盛土4　2.5Y5/2　灰褐色混砂(ビニール袋，陶磁器片含む)
盛土5　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色混砂
盛土6　2.5Y3/2　黒褐色混砂
盛土7　2.5Y4/2　明灰黄色混砂(現代，ビニール袋片)

① 10YR3/4　暗褐色混砂(径10～15cm代の川原石混じり，土壙3埋土)
② 10YR3/4　暗褐色混砂(土壙4埋土)
③ 10YR5/4　にぶい黄褐色砂質(地山の土層)(少，土壙6埋土)
④ 10YR2/2　黒褐色混砂(土壙6埋土)
⑤ 10YR3/4　暗褐色砂質(土壙6埋土)
⑥ 5YR2/3　黒赤色混砂(土壙最大遺物出土)
⑦ 10YR3/1　黒褐色混砂(土壙最大遺物出土，土壙1・3埋土)
⑧ 10YR2/2　黒褐色混砂(土壙最大遺物少量含む，土壙1・3埋土)
⑨ 10YR3/3　暗褐色砂質(土壙1・3埋土)
⑩ 10YR4/6　褐色砂質(地山混じり，土壙1・3埋土)

⑪ 10YR3/1　黒褐色砂質(溝2埋土)
⑫ 10YR4/2　灰黄褐色砂質土(溝2埋土)
⑬ 7.5YR3/2　黒褐色粘砂(溝2埋土)
⑭ 10YR2/1　黒褐色砂質(溝2埋土)
⑮ 10YR4/2　灰黄褐色砂質(土器編片含む，土壙4埋土)
⑯ 10YR4/2　灰黄褐色砂質
⑰ 2.5Y7/4　浅黄色砂質(地山可能性，地山)
⑱ 2.5Y2/1　黒色砂質(地質無い，地山)
⑲ 10YR6/4　にぶい黄橙色砂質(地山)
⑳ 2.5Y4/3　オリーブ褐色砂質(微混じり，地山)

① 盛土
② 2.5Y8/4　淡黄色砂(現代)
③ 2.5Y4/2　明灰褐色混砂(現代，ビニール袋片)(東壁の盛土1)
④ 10YR4/1　暗灰色混砂(小礫含む)(東壁の盛土3)
⑤ 10YR3/4　暗褐色混砂(径10～15cm代の川原石混じり，土壙3埋土)
⑥ 10YR3/3　暗褐色混砂(土器編片少，瓦片含む，土壙15埋土)
⑦ 10YR3/2　黒褐色混砂(土器編片少含む，土壙15埋土)
⑧ 2.5Y3/3　暗オリーブ褐色混砂(土器編片含む)
⑨ 10YR4/2　灰黄褐色砂質(土器編片含む，土壙4埋土)
⑩ 2.5Y7/4　浅黄色砂質(粘質無い，地山)

⑪ 10YR2/1　黒褐色混砂(土器編多量に含む，土壙13埋土)
⑫ 10YR2/2　黒褐色混砂(土壙13埋土)
⑬ 10YR3/4　暗褐色砂質(土器編少量含む，土壙13埋土)
⑭ 10YR6/4　にぶい黄橙色混砂(地山)

⑮ 2.5Y3/1　黒褐色混砂(ビニール袋，陶磁器片含む)
⑯ 2.5Y4/2　暗灰黄色混砂(現代，ビニール袋片)
⑰ 10YR3/3　暗褐色混砂(溝1埋土)
⑱ 10YR3/1　黒褐色砂質(溝2埋土)
⑲ 10YR4/2　灰黄褐色砂質(溝2埋土)
⑳ 7.5YR3/2　黒褐色粘砂(溝2埋土)
㉑ 10YR3/1　黒褐色砂質(土器12埋土)
㉒ 10YR4/2　灰黄褐色砂質(土器12埋土)
㉓ 2.5Y4/3　オリーブ褐色混砂(微混じり，地山)

図 13　1 区土層断面図（1：100）

土壙６出土遺物　口縁部破片数は石列内側で16点，外側で31点出土し，瓦片は４点の内，３点が石列外側で出土している。口径7.8㎝，器高1.6㎝の土師器皿（1），口径9.8㎝，器高2.1㎝の土師器皿（2），折り曲げ技法の剣頭文軒平瓦（6,8）などが出土した。

土壙13出土遺物　１区出土遺物全体の95％に達しており，中でも白色系土師器皿が大半を占めている。土師器皿の法量は明瞭な２極分布を示しており，口径6.0～7.5㎝，器高1.5～2.0㎝の小型の皿（3～42）と，口径11.5～12.0㎝，器高2.7～3.2㎝（45～64）の大型の皿に集中する。小型の皿はさらに平底のもの（3～10）と，底部を押し上げた「へそ皿」（11～42）に分化する。口径が10㎝弱，器高が1.8㎝前後の皿（43）や，口径が13.0㎝以上，器高が3.5㎝を越える皿（65,66）もわずかに出土している。漆紙が土師器皿（62～64）に付着して出土している他，土師質の土鍋（67）・羽釜（68），青磁椀（69），陶器底部（70）なども出土している。

写真４　１区遺構検出状況（東から）

出土瓦には，石清水八幡宮に同文瓦[8]が認められる連珠文軒平瓦２点（2）と唐草文軒平瓦３点（3,4）のほか，巴文軒丸瓦２点（1），剣頭文軒平瓦２点（5,7），平瓦片18点，丸瓦片５点（9,10）が出土している。丸瓦（10）は凸面の玉縁近くに「×」形の刻線がある。軒平瓦（3）は文様の外区に規格線と考えられる凸線があり，この線を目安に瓦当の余白を切除したと考えられる。

4　まとめ

土壙13の遺物の時代は瓦が13世紀前半頃[9]，土器が14世紀前半頃[10]（小森・上村編年のⅦ期新～Ⅷ期古段階）と約１世紀のズレがあるものの，瓦の使用期間が長期に及ぶことを考えれば矛盾はない。14世紀前半の正和６年（1317）に真光院では鎮守・車宿を残して境内が焼失している。遺物に明確な火災痕跡は認められないものの，一つの画期と考えることはできよう。

この調査を受けて，真光院の範囲を『仁和寺伽藍古御殿図』と明治31年調整の『地籍図』をもとに復元を行った（図17）。絵図によると，真光院の南にある東西道は御室川に架かる橋をもつ。地籍図の小字「山下」と字「古御所町」

器種名	口縁部破片点数（点）	パーセント（%）
土師器皿（白色系）	1,814	82.64
土師器皿（赤色・橙色系）	361	16.45
黒色土器	13	0.59
瓦器	2	0.09
陶器類	2	0.09
その他土師器	3	0.14
合計	2,195	100.00

表２　１区上壙13出土土器口縁部破片点数

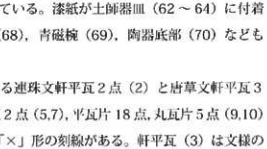


図14　１区出土土師器皿（口径／器高）分布図

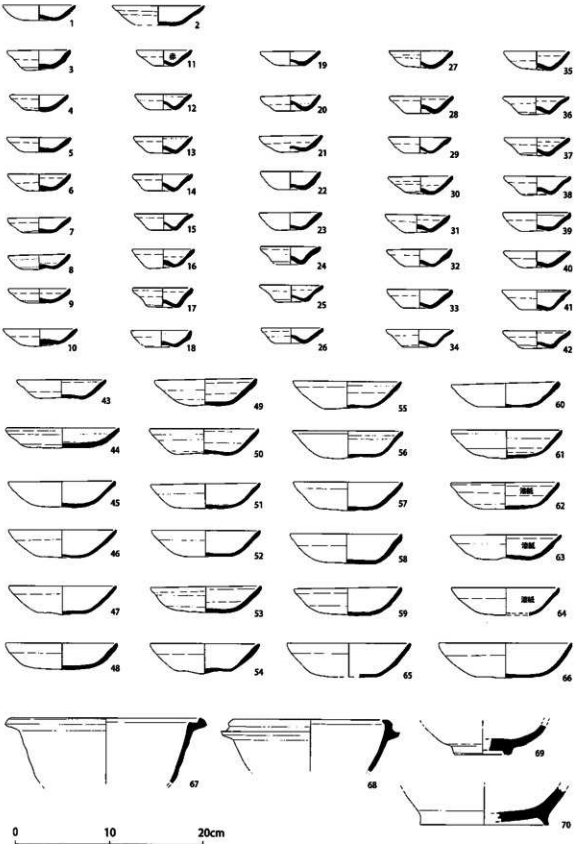


図15　土壙6・土壙13出土土器実測図（1：4）

の境界にある東西道の延長上に「字出口」と記載があることから，橋の位置を推定した。絵図に「寺町」と記された南北道は地籍図の中央南北道と形状が酷似しており，この道を「寺町」と考えた。さらに，この道と岡の裾川との交点に絵図とおり橋を架け，この道と先述の東西道との交点に「四脚御門」，やや東方の南北に細かな地割りが認められる部分に「脇門」を設けた。真光院の境内は，両門の北側，小字山下部分に推定でき，その範囲は，東西 80 m，南北 110 m程度と考えた。なお，この復元結果から，当該調査区は，南北道「寺町」の西側にある「寺中」北東隅に相当する。今後，推定本体部分において調査が進めば，『当時御室御所図，慶長年中，道より下御所也（指図）』[9]に描かれる御堂や書院等の施設が検出される可能性を示している。

（馬瀬智光）

図 16　土壙 6・土壙 1 3出土瓦拓本・実測図（1：4）

註

1) 古藤真平「仁和寺の伽藍と諸院家（上・下）」『仁和寺研究』第1輯・第3輯（㈶古代學協會　1999年・2002年）

2) 上村和直「御室地域の成立と展開」『仁和寺研究』第4輯（㈶古代學協會　2004年）

3) 星野猷二『鹽澤家蔵瓦圖録』（伏見城研究会　2000年），星野猷二・宇佐晋一『器瓦録想』（伏見城研究会　2004年）

4) 山崎信二『中世瓦の研究』（奈良国立文化財研究所　2000年）

5) 小森俊寛・上村憲章「京都の都市遺跡から出土する土器の編年的研究」『研究紀要』第3号（㈶京都市埋蔵文化財研究所　1996年）

6) 杉山信三『院の御所と御堂－院家建築の研究－』（奈良国立文化財研究所　1962年）

図17　調査地と真光院境内推定範囲（明治31年8月調整地籍図　音戸山・山下・古御所町を調整）

Ⅲ-2　史跡名勝嵐山　№95

1　調査経過

調査地は右京区嵯峨鳥居本化野町の宅地である。一帯は周知のとおり平安時代には化野と呼ばれ，鳥部野と並んで都に住む人の葬送地であった。北約 180m には千灯供養で著名な化野念仏寺があり，南約 70m には南北朝の合一により南朝最後の天皇となった後亀山天皇の陵がある。

現地は小倉山の北東麓に当たるため，敷地全体が東へ下がる斜面地で，顕著な遺構の存在が期待できるようには見受けられない。事実，15 年度に東隣地で実施した試掘調査でも，遺構・遺物なしという結果を得ている[1]。しかしながら埋没した古墓などがある可能性もあり，今回，個人邸宅新築による現状変更に伴い，遺構の有無を確認するため平成 16 年 6 月 2 日に試掘調査を実施した。調査面積は 27 ㎡である。その結果，石積状の遺構 1 基を検出したが，計画建物の基礎・地盤改良ともに及ばないことから本格的発掘調査は行わず，遺構の部分的検出と遺物取り上げにとどめ，調査を終了した。

図 18　調査位置図（1:5,000）

2　層序と遺構

層序　調査は傾斜に沿った東西方向にトレンチを掘削した。上層の盛土を除去すると黄褐色系の土が数層続くが，いずれも山土であり，調査開始当初，遺構面と斜面上方からの流入土とを区別することは，極めて難しかった。しかし，調査を進めた結果，後述する石積状遺構がこの山土に埋もれて検出されたため，トレンチ掘削底のにぶい黄褐色泥砂層を遺構面と考えるに至った。

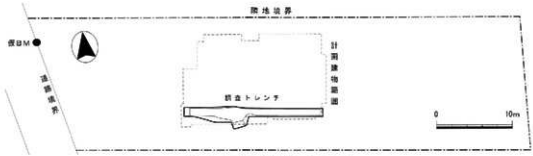


図 19　調査区位置図（1:500）

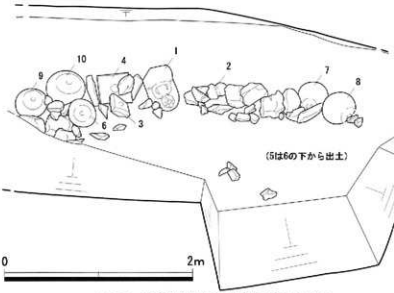


図20　石積状遺構検出状況平面図（1:40）

石積状遺構　トレンチの中ほどのGL-約1.6mで検出した。チャート系の自然石と五輪塔部材・石仏（阿弥陀如来座像）を使用して東西一列に積まれており，高さおよそ0.3～0.5m，検出長3.7mで，なおトレンチ外西方へ続いている。人為的なものであることは疑いないが，かなり乱雑な積み方で，特にどちらかの側に面を揃えるといったこともしていないため，石積みと呼ぶべきものかどうか定かでない。実際，構築材には不向きであるはずの球形の石材（水輪）を多用していることからも，積むというより列状にかためてあるという方が適当である。不要な石材として埋められた可能性も考えたが，上層面に掘形が認められないため，埋められたものではなく積まれたものとは言えそうである。

写真5　石積状遺構検出状況（南東から）

3　遺物

遺物には，時期不明の土師器細片が数点と，石積みに使われていた石造物がある。石造物には石仏1，五輪塔の空風輪1，火輪2，水輪6があり，いずれも花崗岩製である。

石仏　花崗岩の一面に座像を彫りだしたもので，側・背面は特に整えられていない。外形はアーチ形で，舟形光背を意識しているものと思われる。偏袒右肩に衲衣を着け，右肩にも衣をかける。印相は定印だが細部の表現は明確でない。阿弥陀如来像と思われる。

五輪塔部材　図示したとおり，小型のものから比較的大型のものまで大きさはまちまちであるが，水輪だけが6個もある不自然な出土状況であった。水輪については，トレンチ西壁面にも1個が覗いているのを確認しており，少なくとも7個あることが分かっている。最も小型の

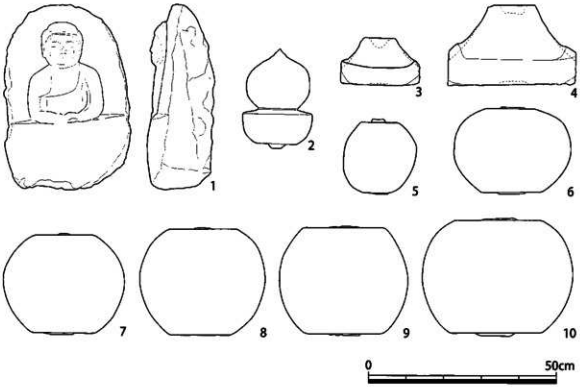


図 21　出土遺物実測図（1:10）

5 のみ風化が進んで脆くなっている。銘文等は一切なく時期不詳であるが，中世には遡るものであろうか。

4　まとめ

化野は古来葬送の地と伝えられているが，その実際の情景がどのようなものであったのか，考古学的にはまったく明らかになっていない。今回検出の遺構も使途不明のものではあるが，当地のような斜面地にも遺構が存在することを示すものとして特に報告した。

上記のごとく，この石積遺構は斜面の上方へまだ続くものであったが，斜面上方からの流入土が厚くこれを覆っており，計画建物の基礎及び地盤改良が及ばない深さであることから，これ以上の追及をやめ，調査を終えた。

（堀　大輔）

註

1) 京都市文化市民局『京都市内遺跡試掘調査概報 平成 15 年度』p.39，調査№ 45，2004 年

参考文献

木下密運「石塔類」（『日本仏教民俗基礎資料集成』第 4 巻，中央公論美術出版），1977 年

藤澤典彦「大和の墓地と石造物」（『週刊朝日百科 日本の歴史・別冊 歴史の読み方』3），1988 年

村木二郎「石塔の多様化と消長」（『国立歴史民俗博物館研究報告』112），2004 年

Ⅲ-3　上京遺跡　№8

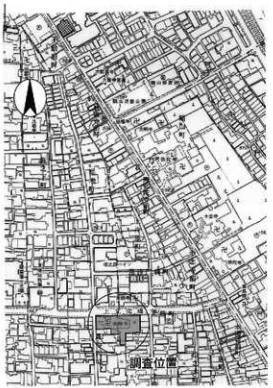


図22　試掘調査位置図（1：5,000）

1　調査経過

調査地は平成15年3月に周知の埋蔵文化財包蔵地となった「上京遺跡」の北端部に位置する。調査地の住所は，上京区寺町通今出川上る二筋目西入北横町360他であり，上立売通と塔之段通の交差点南東部分を占める。当該地の西半部の毘沙門町には建久6年（1195）に平親範が太秦の平等寺・五辻の尊重寺・伏見の護法寺の三寺を一寺として再興した毘沙門堂があったとされる"ことから，寺院の建替えに先立ち，平成16年2月16日に試掘調査を実施した。上京遺跡の試掘調査としては，第2次調査にあたる。

2　遺　構

調査区を計画建物の範囲内に2箇所設定し，東側の調査区を1区，西端の調査区を2区とした。

調査区の基本層序は，近現代盛土，近代の整地層であるオリーブ黒色泥砂，近世の整地層であるにぶい黄褐色泥砂と続き，1区では現地表下0.95 m，2区では現地表下0.64 mで地山の黒褐色砂礫層に達する。2区は近・現代の攪乱著しく，遺構を検出することはできなかった。1区では溝2条，土壙7基以上，石組み井戸1基を検出した。ほとんど総ての遺構は近世後期に位置づけられるため，遺物出土量の多い溝1，土壙2，土壙3について述べる。

溝　1　幅0.8 mの南北溝で，造り替えの痕跡があり，旧溝の肩口は東に0.3 m広がる。

土壙2　東西0.9 m，南北0.75 mの土壙で，近世後半の遺物が出土した。

土壙3　東西1.6 m，南北0.5 m以上の遺構で，土壙2に切られている。

3　遺　物

溝1出土遺物　遺物構成の主体を占める土師器皿は，内部に凹線のない口径6.0 ㎝，器高1.3 ㎝前後の小皿（1，2）と，内面に凹線をもち口径10.5 ㎝～11.5 ㎝，器高1.8 ㎝前後を中心とする皿（3）に分かれる。他に鉄釉香炉（23），脈衣壺の蓋（28）や瓦質土器（29）がある。

土壙2出土遺物　遺物の大半を占める土師器皿は，内部に凹線のない口径8.0 ㎝前後，器高1.5 ㎝の小皿（4，5）と，内部に凹線をもつ口径9.5 ～ 10.5 ㎝，器高1.7 ㎝前後を中心とする

皿（6～21）の二群に明瞭に分かれる。他に瀬戸美濃焼の椀（24），三足の獣脚をもつ青磁香炉（25），太い磨きが外面に施され内面に突起を3～4箇所もつ火鉢（31），染付小椀（26），伏見人形（27），土鍋（30）等が出土している。

土壙3出土遺物　口径7.8㎝，器高1.5㎝の土師器皿（22），羽釜（32），信楽系の摺鉢（33）が出土している。

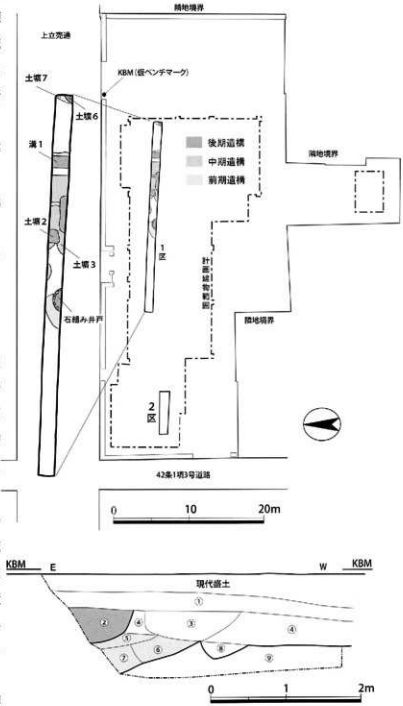
4　まとめ

最も出土遺物の多い土壙2は18世紀末から19世紀初頭の時期[1]（小森・上村編年のⅩⅡ期新段階）に，溝1は18世紀初頭頃（同編年のⅩⅠ期新段階）にそれぞれ位置づけられること，両遺構とも公家町の様相に近い土師器皿を主体とする器種構成を示すことから，当該地に居住した四辻家庶流の公家である藪氏の消費傾向を示しているといえよう。　（馬瀬智光）

註

1)『京都市の地名』（『日本歴史地名大系』第27巻　㈱平凡社　1979年）の543～544頁

2) 小松武彦「近世の土師器皿」『平安京左京北辺四坊』（『京都市埋蔵文化財研究所調査報告』第22冊　㈶京都市埋蔵文化財研究所　2004年）



① 2.5Y4/3　オリーブ黒色泥砂
② 10YR4/2　灰黄褐色泥砂（焼土，炭，土師器片多く含む）：土壙6埋土
③ 2.5Y4/1　黄灰色泥砂（天目茶碗，染付，李大の碗を多く含む）
④ 10YR5/4　にぶい黄褐色泥砂（土師器小片含む）：近世整地層
⑤ 2.5Y5/3　黄褐色泥砂（土師器小片含む）：土壙7埋土
⑥ 2.5Y5/4　黄褐色泥砂：土壙7埋土
⑦ 2.5Y7/4　浅黄色泥砂：土壙7埋土
⑧ 10YR5/3　にぶい黄褐色泥砂：近世土壙埋土
⑨ 10YR3/2　黒褐色砂礫（地山）

図23　調査区位置図（1：500）・1区遺構検出図（1：250）・1区南壁土層断面図（1：50）

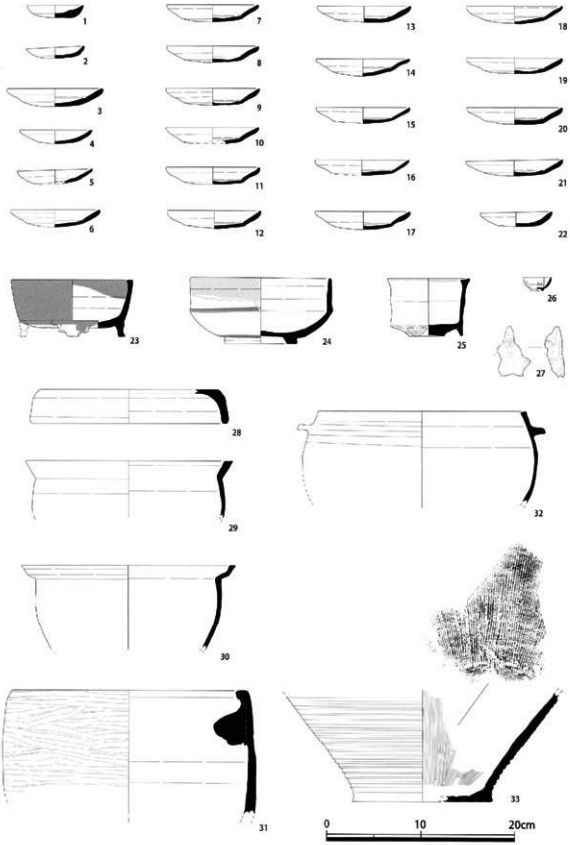


図24　1区溝1，土壙2，土壙3出土遺物実測図（1：4）

Ⅲ-4　鳥羽離宮跡・鳥羽遺跡　№91

1　調査経過

調査地は伏見区竹田田中殿町86，名神高速・京都南インターチェンジの南東隣接地である。当該地南側には鳥羽法皇の造営した金剛心院があり[1]，北東側は同じく鳥羽法皇の御所である田中殿の推定地となっている。西隣地で実施された第72次調査では，金剛心院の北を通る北大路の路面及び両側溝が検出されており[2]，当地にもこれが延びていることが確実視されていた。

今回ここに倉庫新築が計画されたため，平成16年12月9日に試掘調査を実施し，予想どおり北大路の跡を検出した。調査面積は37㎡である。事業者側との協議の結果，遺構面は建物基礎下に十分な保護層を設けて保存することになった。

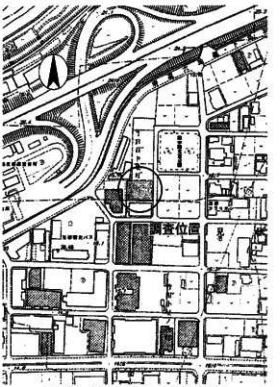


図25　調査位置図（1:5,000）

2　層序と遺構

層序　現代盛土・旧耕土の下に，当地が水を被ったときに形成されたと見られる堆積が3層（③・⑥・⑦層）あり，その下が遺構面となる。遺構面の深さは現地表から150～160cmである。

路面　幅4.9mで表面に径2～3cmの細礫を敷いている。水気の多い土地であるせいで鉄分が沈着して表面が硬化している。

側溝　各トレンチのそれぞれ南端と北端で検出した。平面検出にとどめたので詳細は明らかでないが，断面形を見ると北側溝は肩口から緩やかに落ち込むのに対し，南側溝は比較的急角度で掘られている。また，南側溝は路面より上の⑥層を切り込んで成立しており，北側溝が埋没した後も南側溝だけは維持されていたことが窺われる。

3　まとめ

今回検出した遺構は，西隣地で検出されている北大路路面とその南北両側溝であると考えられる。しかし，72次調査での路面幅が少なくとも8.5mあるのに対して，今回は4.9mと狭い。また，南側溝のみが長く維持される状況は報告されておらず，問題点を残すこととなった。ともに将来の調査に解明を委ねたい。

（堀　大輔）

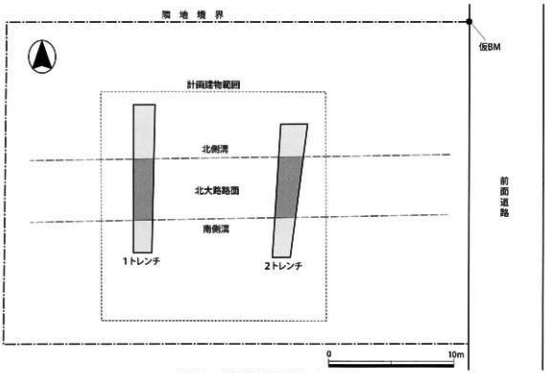


図 26　検出遺構平面図（1:300）

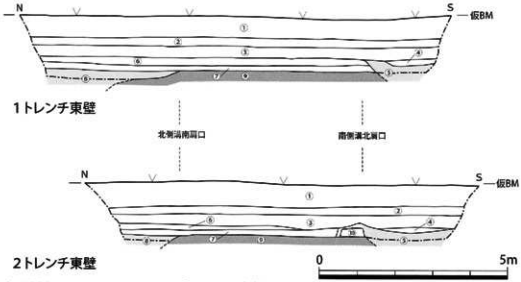


図 27　土層断面図（1:100）

註

1）㈶京都市埋蔵文化財研究所『烏羽離宮跡 1　金剛心院の調査』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第 20 冊，2002 年

2）上村和直「第 72 次発掘調査」（京都市文化観光局・㈶京都市埋蔵文化財研究所『烏羽離宮跡調査概要 昭和 56 年度』1982 年）

Ⅲ-5　下鳥羽遺跡　No.92

1　はじめに

下鳥羽遺跡は低湿地に立地する弥生から古墳時代の集落遺跡で，北側は鳥羽離宮跡の南端付近にあたり，南側は築山氏の居城とされる芹川城跡と一部が重複している。今回の調査地は，京都市伏見区下鳥羽西芹川町44,45で，下鳥羽公園の南側に位置しており，現状は畑地である。

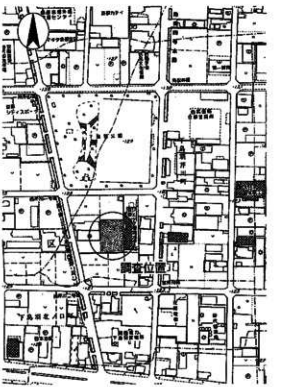


図28　調査位置図（1:5,000）

下鳥羽遺跡での初めての発掘調査は，昭和61年度に当敷地の北東約300m程の所の毛利町で実施しており，そこでは古墳時代の竪穴住居跡，奈良から平安時代の流路遺構を検出している。また，その翌年の昭和62年度には当敷地の東側隣接地においてホテル建設に伴って発掘調査を実施し，弥生時代の方形周溝墓・竪穴住居跡及び古墳時代の竪穴住居跡・土壙墓などを多数検出している[1]。特に弥生時代については初期に属する土器群が出土しており，山城盆地における弥生文化の起源を研究する上で注目される遺跡となった。今回は当該地に工場建設が計画されたことに伴い平成16年8月30日に試掘調査を実施した。敷地の南寄りに南北に長い工場を建設する計画のため，試掘調査もそれにあわせて南北トレンチを2本設定した。調査面積は合計40㎡である。調査の結果，やはり当敷地においても弥生時代から古墳時代の遺構が良好な状態で確認することができた。この試掘調査結果を踏まえ，事業者の方では，遺構を保存するための設計変更を現在検討しているところである。

2　遺　構

両トレンチ共，耕土・床土の下層には中世の遺物包含層があり，それを除去すると弥生時代から古墳時代の遺構面が検出される。検出した主な遺構は，1トレンチでは溝・土壙・落込み状遺構がある。落込み状遺構では弥生土器が出土しており，周溝墓等の溝になる可能性もある。また，2トレンチでは溝・土壙及び方形の竪穴住居跡を検出しているが，この住居跡は一辺が約6.5mの方形のプランであり，掘り下げは行っていないが，遺存状態は良好である。これらの遺構は地山の褐色泥砂層を切り込んで成立している。この竪穴住居跡からは検出作業中に須恵器が出土している。また，1・2トレンチにおいて土壙とした遺構についても竪穴住居跡になる可能性のあ

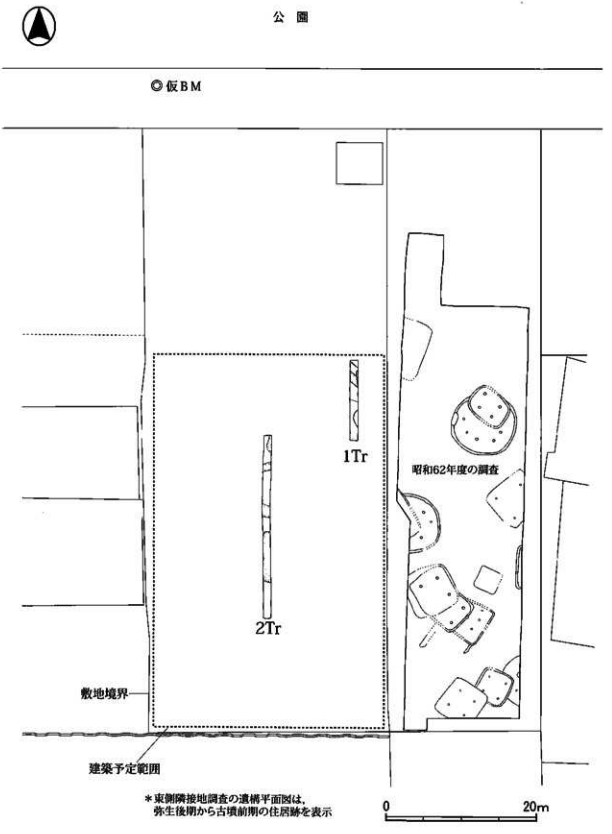


図 29　各トレンチ土層断面図（1:100）

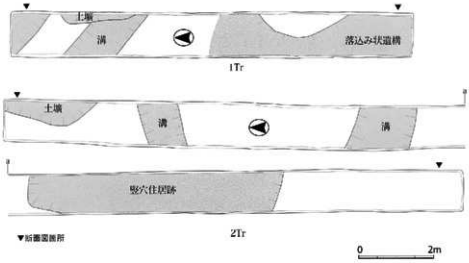


図30　遺構平面図(1:100)

図31　トレンチ断面図(1:40)

ることを付記しておきたい。

3　遺　物

遺物はすべて遺構検出時に出土したものである。図示できるものでは須恵器の蓋と有蓋高杯があった。2トレンチから出土したもので，脚部が住居跡から，他は遺物包含層から出土した。蓋は稜線が鋭く，天井部外面は回転ヘラ削りを認める。有蓋高杯の杯部は，たちあがりが高く，口縁端部は面をもつ。蓋・杯ともに内面の仕上げナデは丁寧である。また，脚部には長方形スカシが三方にある。これらの須恵器は5世紀末頃で，陶邑ＴＫ23型式に併行する時期のものと考えられる。出土遺物にはこの他に埴輪片，弥生土器片がある。

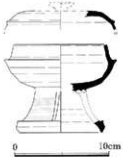


図32　出土遺物実測図（1:4）

4　ま　と　め

今回の調査でも，東側隣接地の調査結果と同様に溝・土壙・竪穴住居跡等の遺構を検出したが，特に5世紀代の竪穴住居跡は，今回が初例である。当該地一帯は下鳥羽遺跡でも遺構密度が高く，集落跡の中心付近に位置するものと考えられる。　（北田栄造）

註

1）前田義明・磯部　勝　「下鳥羽遺跡」㈶京都市埋蔵文化財研究所『昭和62年度京都市埋蔵文化財研究所』1988年

Ⅲ-6　福西４号墳　№93

図33　調査位置図（1:5,000）

1　はじめに

福西古墳群は，京都市の西郊，向日丘陵の西北端付近に位置する古墳時代後期の群集墳である。横穴式石室を内部主体とする23基の円墳で構成されているが，群中には，この円墳以外に古墳時代中期の帆立貝式前方後円墳のあったことが知られている。昭和40年代後半から行われた洛西ニュータウン建設を中心とする開発で大半が消滅し，現在では，今回試掘調査を行った４号墳を含め，10基程を残す程度である。この内，４号墳はニュータウンの造成に伴い昭和45年に石室を中心に発掘調査が行われ，現在では京都生活協同組合洛西店の駐車場内に保存されている。ところが，この駐車場が手狭であり，事故を防ぐ目的から，４号墳を全面的に削り取りたいという計画が持ち上がった。そこで当センターと保存協議の結果，石室に影響を及ぼすことがないと考えられる墳丘の西側部分約３mについてのみ，土木工事の届出が提出されることになり，事前の確認調査を実施することとなった。調査地の住所は西京区大枝東長町1-233，1-296で，調査日は平成16年４月21・22日の２日間である。

2　墳　丘

４号墳の現状は，最大直径15.5mを測る不整形な円形で，墳丘の外周は縁石により外部と区切られている。発掘調査が行われた昭和45年時点での墳丘規模は，直径20m，墳丘高3.9mを測り，推定復元では直径23m，墳丘高4.5mの規模が考えられている。なお，残存する墳頂部の標高は約70mであった。調査当時の墳丘には，石室入口部がある南斜面と，その反対側の北斜面に一辺８～10m四方の大きな盗掘孔があった。また墳頂部にも盗掘孔があって，石材が露出していたとのことである。

今回の調査は，削り取られる予定の墳丘西北斜面の約３mを対象に実施した。

まず幅約1.5mで墳丘西裾から墳丘中心部に向かって工事予定範囲である長さ３mのトレンチを開けた。結果，このトレンチでは石室等の遺構は認められなかったため，調査を計画範囲全体に広げることとし，まず，予定地の北半部から掘り下げを開始した。

昭和45年測量(註1文献より)

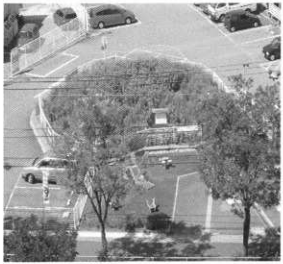


写真6　工事前の全景(平成15年8月撮影,南から)

平成15年測量

図34　墳丘測量図(1:800)

写真7　工事後の全景(平成16年6月撮影,南から)

堆積状況を観察すると，封土は大きく4層に大別できた。最上層の封土1（④層）は，天井石に対応する封土とみられ，墳丘構築の最終段階に盛られたものである。また，封土2（⑥層），封土3（⑦層）及び封土4（⑫層）は，石室石材の据え付けに伴い段階的に盛られたものである。封土は橙色系の砂泥層・砂泥層であり，下層へ行くに従い微妙に粘土質が強くなる。最下層の封土4だけは他の封土より薄く，黄褐色を呈している。また全体として各層内には黄褐色及び黒褐色の泥砂層が薄くブロック状に混入している。封土に使用された土は，付近一帯の竹林にみられる黄色系の砂泥・泥砂層であるが，この黄褐色・黒褐色のブロック状の土は，酸化度合いが強いことから，採掘地における表層部分の土が混ざったものと思われる。地山は小礫が混ざった黄褐色の泥砂層で，調査範囲の東北端から西南端へ向かって下がっており，その落差は1.2 m以上である。当該地一帯は東南方向へ延びる向日丘陵の南西側にみられる緩やかな斜面に位置しているが，この4号墳でも墳丘基底部が傾斜している様子を観察することができる。

3　石　室

今回は，石室部分は調査していないため，昭和45年に行った調査資料でみると，内部主体は南向きに開口する両袖式の横穴式石室で，主軸はほぼ磁北を向いている。石室規模は，全長が10.18 mで，内玄室部4.5 m，羨道部5.68 m，幅は奥壁で1.88 m，最大幅は玄室部中央付近にあり2.14 mを測る。羨道部の最大幅は1.28 mである。天井石は全て欠損していたが，石組は奥壁が2石，側壁は東西ともに3石までが残存していた。残存する石材で最大のものは，奥壁2石の内の上段のもので，1.56 m×1 m大のものである。側壁では羨道部東壁南端部の石材が1.8 m×0.9 mで最も大きい。石材の据え方は，大半が横に長く据えているが，袖石については縦長に据えられている。なお，石積みには若干の持送りが認められる。これら石室に使用された石材はすべてがチャートである。次に石室床面をみると，本古墳築造時の石室床面と追葬時の床面の2面が確認されている。下部床面上に10～15 cmの厚さで粘土を敷き詰め上部床面を作り出している。この2面の床面は玄室内のみであり，羨道部に関しては床面は1面である。すなわち下部床面だけで見た場合，玄室部は羨道部よりも若干低くなっており，そこに粘土を敷いて上部床面を形成したものである。上部床面は盗掘が著しく，かなり荒らされていたが，上下床面ともに敷石が施されていた。出土遺物には須恵器杯・蓋・壺・高杯，土師器皿・高杯，鉄製品などがある。これらの遺物は主に羨道部と玄室部の下部床面から出土しており，玄室内の上部床面からは出土遺物は無かった。また，羨道部からは和同開珎が1枚出土している。

写真8　墳丘断ち割り断面（西から）

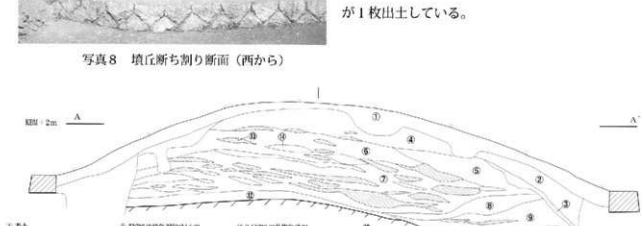
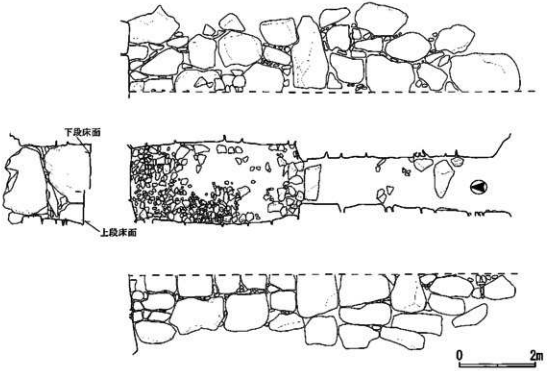


図35　墳丘断面実測図（1:80）



註１文献掲載石室実測図を調整使用
＊レベル及び断面切断箇所は不明。平面図床面は上段のもの

図 36　石室実測図（1:100）

4　ま　と　め

昭和 45 年に行われた調査により，福西４号墳の墳丘規模は直径 23 m，墳丘高 4.5 mの規模と推定され，横穴式石室も全長が 10 mを越える両袖式の横穴式石室であることが判明した。また，床面に関しては上下２面の存在が確認され，貴重な資料となっている。この４号墳の築造時期は，出土遺物からみて６世紀後半とみられるが，上部床面が造られた追葬の時期については出土遺物が無いため決めがたい。当時の報告者は，和同開珎の時期がその手懸りになるとしている。

今回の土木計画は，４号墳を全面的に削り取る予定であったが，事業者の理解を得て，最小限の掘削にとどめてもらったことにより，主体部である横穴式石室に影響を及ぼさないこととなった。

（北田栄造）

註

１）藤岡謙二郎編　『洛西ニュータウン地域の歴史地理学的調査』1972 年　京都市都市開発局洛西開発室

Ⅲ-7　長岡京跡・淀城跡　No.102

図37　試掘調査位置図（1：5,000）

1　調査経過

調査地は長岡京跡の南端部，淀城跡の東端に接している。この淀城は，元和9年（1623）に徳川二代将軍秀忠が，伏見城廃城後の山城警護を目的として松平定綱に築城させたものであり，敷地の西側境界線がこの淀城の外堀ラインを踏襲していると考えられてきた。

当該地の住所は伏見区淀池上町38他であり，宅地造成の計画に従い，淀城外堀の外周施設等の存在を確認する目的で平成16年10月14日に試掘調査を実施した。

試掘調査は，包蔵地として周知されている淀城跡の東端に直交する方向で調査区（1区）を設定した後，敷地南端部に現存する石垣（2区）の測量を実施した。

試掘調査の結果，従来の外堀推定ラインの東5mのところに本来の外堀外周の石垣が巡ること，さらにこの石垣と直交する東西方向の石垣が検出されたことから，開発者との協議を経て設計変更により現状保存が図られることになった。調査面積は14㎡である。

2　遺　構

試掘調査時には既存建物が敷地の半分以上を占めていたこと，重機の稼働可能範囲が限られていたことにより，掘削したのは1区だけである。1区を設定した敷地北半部は平坦地であるが，石垣が現存する2区の周辺については石垣の東西で大きな段差が認められる。

1区南北石垣　現状の淀城跡東端ラインから約5m東側に並行する石垣で，表面がコンクリートで被覆されているため3段分を確認しただけである。石垣石の検出レベルは現地表下0.3mであった。後述する東西石垣との直交部分，つまり隅部より南側は石の大きさ，形を揃えた丁寧な0.4m角の石積みである。一方，東西石垣を封鎖する形で後世に構築された隅部より北側については，大きさが不揃いで積み方も雑然としており，裏込めの幅も狭く，脆弱である。隙間には漆喰が充填されている。この石垣を検出したこと，表面がコンクリートで被覆されていることから，昭和期においては2区と同様敷地内に段差が存在していたことが分かった。この石垣のラインは地籍図内の宅地境界として表現されており，南北両隣地でもこのラインの並びで宅地割りが変化

することから，本来の淀城の外堀外周ラインは検出した石垣の位置である可能性が高い。

1区東西石垣　南北方向の石垣と直交する石垣であり，隅部とそれ以外で構築方法に精粗が認められる。石垣の検出レベルは西端で現地表下0.3 m，東端で0.6 mであり，埋土中に近・現代のレンガや陶磁器片，ガラス瓶等が認められることから，最終的に埋設した時期は昭和期と推定される。

石垣の西端から3 mのところまでは約0.4 m角の大きさで統一された石を5段以上整然と積み上げて造られており，高さは1.3 m分確認することができた。石垣石間の隙間には拳大の礫が充填されている。石垣の強度上の弱点である隅部が崩壊しないように構築されたと考えられる。

一方，3 mよりも東部分については，0.25 m～0.7 mと石の大きさが不揃いで，方向も一定せず，積み方も粗い。段数は3段程度であり，東に行くに従い石垣底面が浅くなる。残存する石垣の高さは0.7～0.9 mであった。この部分では，石垣の底面を揃える「根太」と呼ばれる丸太材等も認められず，褐色細砂の地山上に直接据えられた可能性もある。

2区石垣　現存する「コ」字状の石垣の西辺は，1区南北石垣の直線上に位置し，地籍図上の境界線と一致する。この石垣は数次にわたる改修を受けており，隙間に漆喰やセメントをかませた部分もあるため，ここ数十年の間に改修を受けていることは明らかである。しかし，地籍図上の境界線であることからも，地下には1区の石垣と同様に淀城期の石垣が延長していると考えられる。この西辺の長さは4.2 m，視認で

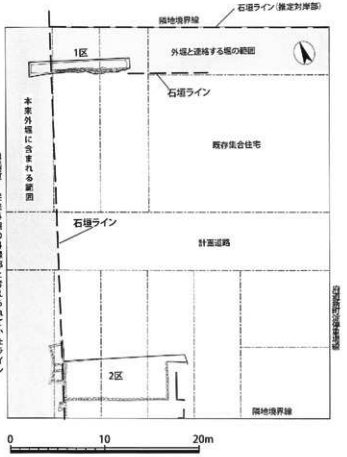


図38　調査区位置図（1：400）

写真9　1区石垣西端部分（北東から）

写真10　2区現存石垣（南西から）

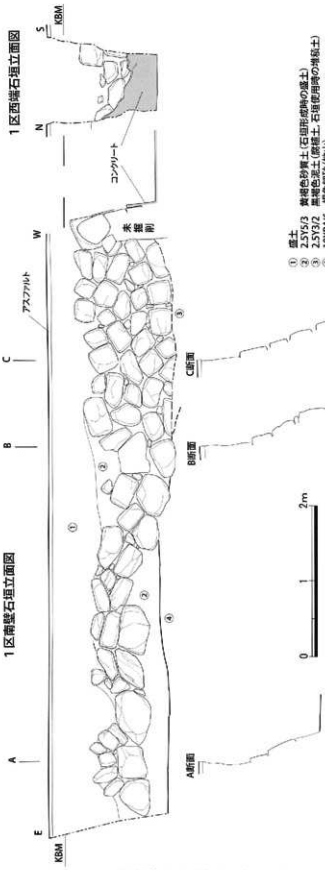


図39　1区石垣立面図・断面図（1：50）

きる石垣の段数は4段～5段，高さは1.0 m程度である。

「コ」字状石垣の南辺は長さ11.0 m，石の奥行き0.3 m，視認できる石垣の段数は2～3段，高さは0.5 mであった。

最後に東辺石垣は視認できる段数は1段，高さは0.3 mであった。この「コ」字状石垣は建物基礎として機能したと考えられるが，地表面に礎石や束石の痕跡は認められなかった。

また，西辺石垣には低位に降りるための石段が付属しているが，淀城期まで遡るものではないと考えられる。

3　まとめ

これまでの淀城跡の調査において，石垣が報告されているのは，天守台を含む本丸石垣[7]，本丸と二ノ丸の境界部分[8]，中堀内周[9]，内堀内周・中堀外周・枇杷木御門内側[10]であり，周知の埋蔵文化財包蔵地「淀城跡」の範囲変更にかかわるものではなかった。今回，従来の位置より5 m東に本来の石垣外周ラインが巡ることが判明するとともに，外堀に接続する堀の存在を確認したことにより，従来の範囲を再考せざるをえなくなった。今回の調査位置を埋蔵文化財調査センターの所蔵する『山州淀御城府内之図』（寛延三庚午（1750年）初夏）に落としてみたところ，外堀外周及び池上町の「町ヤ」と記入された部分にあたることがわかった。この絵図のほか，複数の絵図を確認したものの[9]，外堀に直交する

堀は描かれておらず，小規模な排水等の機能を有した堀であった可能性が高い。また，今回の調査区の対岸の武家屋敷地区では大規模な土蔵跡が検出されており[6]，今回の調査地周辺の「町ヤ」地区の調査が進展すれば，土地利用の差異が遺構の形で明らかになるであろう。

（馬瀬智光）

註

1）『淀城跡調査概要Ⅰ』（京都市建設局公園管理課・淀城跡調査団　1987 年），『淀城跡公園石垣改修工事報告書』（京都市建設局公園緑地部　1990 年）

2）馬瀬智光「淀城跡」『京都市内遺跡試掘調査概報　平成 8 年度』（京都市文化市民局　1997 年）

3）久世康博・木下保明「淀城跡（TB29）」『京都市内遺跡試掘立会調査概報　平成 2 年度』（京都市文化観光　1991 年）

4）馬瀬智光「長岡京跡・淀城跡」『京都市内遺跡試掘調査概報　平成 15 年度』（京都市文化市民局　2004 年）

5）西川幸治編『淀の歴史と文化』（淀観光協会　1994 年）

6）内田好昭『長岡京跡・淀城跡』『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報』2003-13（㈶京都市埋蔵文化財研究所　2004 年）

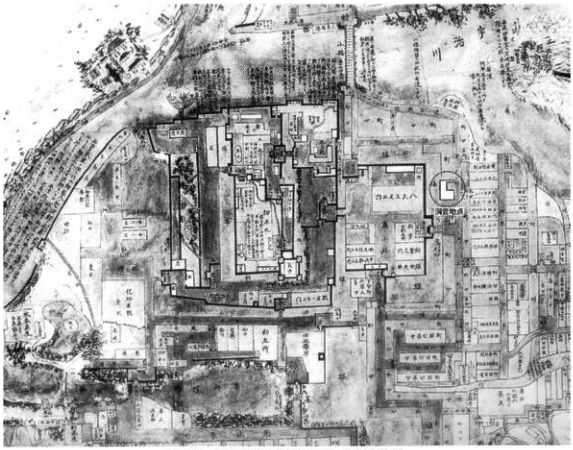


図 40　『山州淀御城府内之圖』と調査位置

Ⅳ 試掘調査一覧表

平成１５年度１月～３月

平安京左京地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面積	受付番号
1	一条二坊十二町跡	上京区東堀川通椹木町上る五町目205-1他	2004/2/9	GL-1.1mで平安後期の池などを検出。発掘調査を指示。	49㎡	03H515
2	六条二坊八町跡・鳥丸綾小路遺跡	下京区橋橋町1，北門前町758,761,761-2,762	2004/3/8	GL-0.9mで中世整地層。土壙１基ほか検出。	57㎡	03H524

平安京右京地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面積	受付番号
3	六条三坊五町跡	右京区西院溝崎町4-1他4筆，西院西溝崎町42他6筆	2004/1/19	平安京の一町を二分する小径に伴うと考えられる東西溝を検出。発掘調査を指示。	108㎡	03H453
4	六条三坊六町跡	右京区西院西溝崎町14,22-2,23-1,23-2	2004/2/12	GL-0.6mで馬代小路側溝を検出。発掘調査を指示。	72㎡	03H493
5	七条二坊九町跡	下京区西七条掛越町35,37,38	2004/3/15	GL-0.6mで地山の浅黄色砂泥。敷地の大半は既存建物による攪乱。	32㎡	03H550

太秦地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面積	受付番号
6	草木町遺跡	右京区太秦京ノ道町20-6他（常盤野小学校）	2004/1/28	GL-0.8mで，黄褐色砂泥層の地山。顕著な遺構なし。	29㎡	03S461
7	清涼寺境内	右京区嵯峨釈迦堂藤の木町46	2004/1/13	近世の整地層及び井戸跡や土器の集積遺構を検出。発掘調査を指示。	40㎡	03S407

洛北地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面積	受付番号
8	上京遺跡	上京区寺町通今出川上る二筋目西入北横町360他	2004/2/16	現地表下0.9mで近世中期以降の土壙，井戸，溝等を検出する。本文20頁。	42㎡	03S522
9	大報恩寺境内	上京区五辻通六軒町西入溝前町1035-3,4,5,6 ・五辻通七本松西入上る老松町60,63,64,191	2004/3/31	地表下1.5mで褐色砂泥層の地山を検出するが，未解体の状態での試掘調査であるため，再試掘が必要。	4㎡	03S581

北白川地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面積	受付番号
10	法輿院跡	中京区河原町二条上る清水町341	2004/1/14	部分的に近世の焼土層を確認するが，全体に攪乱が多く，中世以前に遡る遺構なし。	65㎡	03S393

鳥羽地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面積	受付番号
11	鳥羽離宮跡	伏見区堀端町102,103,111	2004/1/21	全体が湿地状の堆積で，自然流路に若干の遺物を含むものの明確な遺構はなし。	51㎡	03T454

南・桂地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面積	受付番号
12	中久世遺跡	南区久世殿城町438,439,440,450	2004/2/18	GL-1.4mで旧西国街道に沿う溝を検出。	28㎡	03S514

伏見・醍醐地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面積	受付番号
13	伏見城跡・金森出雲遺跡	伏見区観音寺町	2004/2/24～26, 4/5	時期不明の礎石1基、東西溝1条などを検出。試掘の延長を指示。	117㎡	03F091

平成１６年度４月～１２月

平安宮地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面積	受付番号
14	大蔵省跡	上京区七本松通一条下る三軒町64, 64-1, 64-2, 64-4, 65-11, 65-58, 65-59	2004/11/24	GL-1.4mで、にぶい黄褐色砂泥層の地山面を検出。遺構・遺物なし。	41㎡	04K381
15	左近衛府跡・平安京跡・聚楽第跡	上京区大宮通下長者町下る清元町722-1	2004/10/22	GL-2.5mで灰褐色砂礫層の地山を検出。土取り跡かも。	10㎡	04K364
16	中和院跡	上京区十四軒町398	2004/8/4	土取りにより、平安時代の遺構面消失。調査区東端ではGL-3.8m以上が掘乱。	20㎡	04K169
17	左兵衛府跡・東雅院跡	上京区下立売通大宮西入浮田町605	2004/7/13	粘土採掘もしくは堤の開削により、平安時代以前の遺構面が大きく削平されている。	9㎡	04K167
18	室松原跡・鳳瑞遺跡	中京区聚楽廻西町180-1の一部, 180-3	2004/10/26	GL-1mで、にぶい黄橙色砂泥層の均質地山を検出。遺構・遺物なし。	11㎡	04K286
19	朝堂院跡・聚楽遺跡	中京区聚楽廻東町8-1	2004/7/8	GL-35cmで時期不明の整地層。-82cmで地山。	10㎡	04K124
20	典薬寮跡・御井跡	中京区西ノ京車坂町12-4	2004/5/12	GL-1m前後で地山の黄色砂泥層。遺構・遺物なし。	43㎡	04K009
21	朝堂院跡・聚楽遺跡	中京区聚楽廻東町10-6, 10-7, 10-8	2004/7/22	GL-2.5mまで掘乱。	13㎡	04K129
22	朝堂院跡・聚楽遺跡	上京区千本通旧二条上る聚楽町823	2004/11/2	GL-2mまで近世以降の盛土。遺構面は聚楽土採掘により撹乱。	5㎡	04K362
23	朝堂院跡・聚楽遺跡	中京区聚楽廻南町24-14	2004/7/14	GL-2.1mまで掘削するが、地山確認できず。	6㎡	04K116
24	朝堂院跡	京都市中京区西ノ京小堀町1-6	2004/4/12	GL-0.9mでにぶい黄橙色砂礫層の地山を検出。中世以前に遡る遺構・遺物なし。	26㎡	03K487

平安京左京地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面積	受付番号
25	二条四坊五町跡	中京区堺町通二条上る亀屋町166-1, 166-2	2004/11/17	GL-1m以下で、室町時代以前の遺構・遺物を多数検出。発掘調査を指示。	27㎡	04H368
26	三条四坊十四町跡	中京区乾屋町通師小路上る中白山町277	2004/8/18	度重なる河川の氾濫により、遺構の残存状況は悪い。	25㎡	04H164
27	五条二坊六町跡	下京区堀川通仏光寺下る吉水町338-1, 340-1, 342, 岩上通仏光寺下る徳屋町426, 427, 428	2004/11/16	GL-1.5mで室町時代後半の土壙数を検出するが、全体として削平著しい。	53㎡	04H313
28	五条四坊一町跡・烏丸綾小路遺跡	下京区東洞院通四条下る元悪王子町42他	2004/11/25	GL-1.5mで鎌倉時代・室町時代の大小の土壙を多数検出。発掘調査を指示。	38㎡	04H321
29	六条三坊九町跡・烏丸綾小路遺跡	下京区烏丸通松原下る烏丸町406他	2004/7/7	GL-1.3mで鎌倉時代の土壙１基検出。-180cmで砂礫の地山。	27㎡	04H104
30	七条一坊四町跡	下京区朱雀正会町1-2, 1-15	2004/9/30	ほぼ全域が、旧建物の基礎により撹乱を受けていたが、部分的にはGL-0.7mで黄褐色砂泥層の地山を検出。	62㎡	04H253
31	七条一坊十五町跡	下京区柳筋通花屋町下る裏片町198-1	2004/11/8	GL-44cmで鎌倉後期の溝・土壙・柱穴等多数検出。発掘調査を指示。	67㎡	03H520
32	八条二坊五町跡	南区西九条戒光寺町21-6	2004/6/14・15, 7/2, 8/19	平安時代の瓦を含む土壙や中世の土壙を検出するが、全体として遺構は希薄。試掘の延長を指示。	30㎡	03H596
33	八条四坊四町跡	下京区東塩小路高倉町	2004/8/23	全体として流れ堆積の状況を呈し、顕著な遺構はなし。	10㎡	04H208
34	九条三坊十町跡・烏丸町遺跡	南区東九条上殿田町31-1他	2004/11/9	GL-0.7mで中世の土壙・柱穴等を検出。発掘調査を指示。	58㎡	04H366
35	九条三坊十一町跡・烏丸町遺跡	南区東九条北烏丸町2, 1-3	2004/10/27	地山は砂層・砂礫層で、敷地全体が氾濫原の様相を呈している。	67㎡	04H375

平安京右京地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面積	受付番号
36	三条一坊四町跡	中京区西ノ京小倉町10-1	2004/4/26，5/13	GL-1.1～1.6mで，平安時代前期の池及び島状遺構を検出。基礎深度が洗いため遺構への影響は軽微。本文3頁。試掘の延長を指示。	58㎡	03H605
37	四条一坊一町跡・朱雀大路跡	中京区壬生朱雀町29	2004/4/28	西高瀬川の氾濫を受け易い場所にあり，砂・砂礫が堆積する。遺構・遺物なし。	29㎡	04H005
38	四条一坊一町跡・朱雀大路跡	中京区壬生朱雀町32-1	2004/12/15	GL-1.3mで路面状の土層を検出するが，既存建物による撹乱が著しい。	25㎡	04H403
39	四条四坊十五町跡	右京区山ノ内苗町20-8，20-9，21-3	2004/7/26	全体に湿地状の堆積。	19㎡	04H212
40	五条一坊十三町跡	中京区壬生下溝町44-29，76	2004/4/7	GL-0.9mで旧堀子川の東肩口と近世土取穴多数を検出。	17㎡	03H562
41	五条二坊七町跡	中京区壬生上居ノ内町11，16-11，16-12	2004/6/16	GL-0.4mで地山。東下がりの落ち込みを検出。	21㎡	04H075
42	五条四坊三町跡	右京区西院日照町63，77-2，78-2，79，80	2004/9/6・7	南半はGL-1.2mで中世耕作層検出。北半は湿地状堆積。	45㎡	04H200
43	五条四坊四町跡	西院清水町3-1，3-3，3-4	2004/10/7	全域が湿地状堆積だが，GL-2.2mで中世の整地層を検出。遺構なし。	42㎡	04H177
44	五条四坊十二町跡・西京極遺跡	右京区西院月双町15，16，17	2004/7/20	GL-1mで弥生時代の土壙，溝等を検出。基礎深度が洗いため遺構への影響は軽微。	23㎡	04H125
45	五条四坊十三町跡	右京区西院西田町97-1，98-1，99-1，99-2，100，101	2004/7/1	GL-1.2mで古墳～平安時代の遺物包含層を検出するが，遺構はなし。	27㎡	04H001
46	六条一坊二町跡・朱雀大路跡	下京区中堂寺北町70	2004/7/12	朱雀大路の路面は検出されず。	29㎡	04H109
47	六条一坊十六町跡	下京区中堂寺庄ノ内町24	2004/7/5	GL-1.5～1.9mまで石炭ガラ。以下地山。	10㎡	04H121
48	六条四坊三町跡・西京極遺跡	右京区西院六反田町4-1他	2004/5/31	敷地の大半は湿地状の堆積で，GL-3.5mまで粘土層。	39㎡	04H043
49	六条四坊十六町跡	右京区西京極葛野町3	2004/9/15・16	敷地全体が湿地状の堆積。地山はGL-1.8mで検出される褐灰色の砂礫層。	72㎡	04H078
50	七条二坊十一町跡・衣田町遺跡	下京区西七条比輪田町37	2004/9/10	GL-0.3mで平安後期～鎌倉の柱穴，土壙，溝，流路を検出。発掘調査を指示。	42㎡	04H242
51	七条三坊十五町跡	右京区町ノ坪町31，24-1，24-2，23-2の一部	2004/8/3	GL-2～2.7mで砂礫の地山。上層は湿地状の自然堆積。	36㎡	04H184
52	八条一坊九町跡	下京区西七条南東野町18，25-1	2004/9/28	GL-0.5mで明黄褐色砂泥層の地山を検出。遺構・遺物なし。	25㎡	04H277
53	八条二坊五町跡	下京区梅小路西中町8，9他	2004/6/21	敷地全体が湿地状の堆積。	13㎡	04H081
54	八条四坊一町跡	右京区西京極中沢町1-1他6筆	2004/7/29	GL-0.1mで湿地堆積，-2.3mで砂礫の地山。敷地全体が柱川の旧氾濫原。	25㎡	04H057
55	八条四坊十町跡	右京区西京極畑田町7-1，63-1	2004/7/27	GL-0.9mで灰黄褐色砂礫層の地山。遺構・遺物なし。	37㎡	04H215
56	九条二坊十二町跡	南区吉祥院清水町30	2004/8/11	GL-0.6mで黄灰色砂泥層の地山。顕著な遺構なし。	24㎡	04H134
57	九条四坊七町跡	南区吉祥院宮ノ西町29，26-2	2004/8/16	敷地全体が流れ堆積。	33㎡	04H225
58	九条四坊七町跡	南区吉祥院宮ノ西町37，28	2004/8/27	GL-0.6mで砂礫層。遺構・遺物なし。	26㎡	04H274
59	史跡西寺跡・唐橋遺跡	南区唐橋西寺町52，53	2004/9/8	GL-0.2mで食堂院南門及び南面東回廊の礎石据付跡4基を検出。本文6頁。	51㎡	16N030

太秦地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面積	受付番号
60	常盤東ノ町古墳群	右京区常盤一ノ井町5番（の一部），5番1（の一部）	2004/4/14・15	古墳時代の溝状遺構を検出するが，性格は不明。基礎深度が洗いため遺構への影響は軽微。	18㎡	03S598
61	常盤東ノ町古墳群・村ノ内町遺跡	右京区常盤仲ノ町3	2004/6/9	GL-0.5～0.8mで流路堆積の地山。	14㎡	04S061
62	太秦馬塚町遺跡（太秦馬塚古墳隣接地）	右京区太秦馬塚町7-1，7-2，7-4，7-5	2004/12/14	GL-0.9～2mで地山。一部で遺構を検出するが，時期，性格とも不明。	37㎡	04S426
63	仁和寺院家跡	右京区常盤古御所町8，8-5，8-6，8-7，8-8，8-9，9-21，9-22，9-23，9-24	2004/4/19，5/19・21・27	仁和寺の院家の一つである真光院に関連する土壙や溝，柱穴を検出。試掘調査の延長を指示する。本文10頁。	67㎡	03S599
64	御堂ケ池古墳群	右京区梅ケ畑向ノ地町25-13の一部	2004/8/20	御堂ケ池を埋め立てた痕跡を検出。	22㎡	04S176

洛北地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面積	受付番号
65	寂光院境内	左京区大原草生町676, 4, 5, 7, 8, 9, 10	2004/7/28	全体が山土で，対象となる遺構・遺物はなし。	4㎡	04S100
66	植物園北遺跡	左京区松ヶ崎本町19, 20, 24-2，今熊道町5-5	2004/11/1	GL-1.2mで黄褐色泥砂層の地山。遺構なし。	42㎡	04S344
67	御土居跡	北区鷹峯旧土居町4-3他	2004/10/21	土塁部分は，削平されているが，紙屋川へ向かって落込む堀の肩口を検出した。	33㎡	04S367
68	大宮北山ノ前瓦窯跡	北区大宮北山ノ前町40-2	2004/9/14	視点内から平安中期の瓦・窯体の破片が出土。	26㎡	04S249
69	大報恩寺境内	上京区五辻通七本松西入上る老松町103-60	2004/4/1	大報恩寺に関わる蓮町時代の溝や大形土壙などを検出。発掘調査を指示。	43㎡	03S582
70	相国寺旧境内	上京区上御霊横通寺町西入上御霊馬場町366-1（一部）	2004/7/21	地山は前面の道路面よりGL-1.5～2mで地山の砂礫層を検出。遺構・遺物はなし。	6㎡	04S183
71	上京遺跡	上京区寺之内通新町西入る妙顕寺前町515-24他	2004/8/2	GL-0.6～0.7mで中世の遺構群を良好な状態で検出。発掘調査を指示。	51㎡	04S223
72	上京遺跡	上京区東堀川通元誓願寺上る村雲町415，元誓願寺通東堀川東入西町448, 450	2004/8/26	集石遺構を1基検出したが，解体建物により敷地の大半が撹乱されていた。	23㎡	04S133

洛東地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面積	受付番号
73	中臣遺跡	山科区東野舞台町97，97-28	2004/6/8	GL-0.4～0.8mで灰色泥砂層の地山。小土壙（時期不明）を1基を検出したが，敷地の大半が撹乱を受けており遺構面は消滅していた。	32㎡	04N086
74	中臣遺跡	山科区栗栖野中臣町10-1	2004/6/24	GL-0.5mで，褐色泥砂層の地山。遺構・遺物はなし。	18㎡	04N137
75	史跡随心院境内	山科区小野御霊町39	2004/6/23	GL-0.8mで砂礫層の地山を検出。遺構・遺物はなし。	31㎡	16N002
76	山科本願寺南殿跡	山科区音羽伊勢宿町32-19	2004/6/28	GL-2m程で砂礫層の地山。対象となる遺構はなし。	10㎡	04S091
77	山科本願寺跡	山科区西野山階町30	2004/8/5	土塁上半は既に削平されているが，下半が完全に残っていることを確認。発掘調査を指示。	43㎡	04S170
78	大塚遺跡	山科区大塚野溝町66-2の一部，86-21の一部，89-3の一部	2004/12/10	現代盛土が2m程堆積。遺構・遺物はなし。	18㎡	04S394

伏見・醍醐地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面積	受付番号
79	伏見城跡	伏見区下板橋町593-1，593-4，597-1，597-3, 598-1，竹中町634-1，635，鷹匠町37-1	2004/5/28，11/29・30	敷地北半部において，近世の土壙・溝などの遺構を良好な状態で検出。発掘調査を指示。	225㎡	04F068
80	伏見城跡（黄金堀1号墳北隣接地）	伏見区桃山町遠山103-3他	2004/11/22	敷地南端部はGL-2.6mで地山。北へ行くほど厚い盛土となる。遺構・遺物はなし。	17㎡	04F257
81	伏見城跡	伏見区深草大亀谷万帖敷町88（一部），88-2（一部）	2004/10/18	旧地形の高まりの端部に盛土をすることで平坦地を拡大。ただし，時期は不明。	17㎡	04F310
82	伏見城跡	伏見区納屋町136-1	2004/12/13	東西方向の石垣溝1条を検出。明治以降のものか。	22㎡	04F328
83	おうせんどう廃寺	伏見区深草鞍ヶ谷町32の一部，40-1の一部及び40-23の一部	2004/9/24	既に土取りによって完全に削平されている。	52㎡	04S175
84	史跡醍醐寺境内	伏見区醍醐東大路町35-1	2004/9/1・2	境内北端を画する東西方向の石垣を検出。	17㎡	16N031
85	史跡醍醐寺境内	伏見区醍醐御藍町19	2004/12/22	GL-0.6mで褐色泥砂層の地山を検出。遺構・遺物はなし。	10㎡	16N040

鳥羽地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面積	受付番号
86	鳥羽離宮跡・鳥羽遺跡	伏見区中島御所ノ内町21番，22番	2004/5/11	GL-1.3m以下，シルト層と粘土層が交互に堆積する。	10㎡	04T007
87	鳥羽離宮跡・鳥羽遺跡	伏見区竹田西小屋ノ内町45，46，47	2004/5/18	GL-1.5mで平安時代前期の遺物包含層を検出。基礎深度が浅いため遺構への影響は軽微。	25㎡	04T041
88	鳥羽離宮跡	伏見区竹田田中殿町77	2004/7/15	GL-0.9mで田中殿に関連すると考えられる建物地業を検出。設計変更を指示。	19㎡	04T118
89	鳥羽離宮跡	伏見区中島前山町28	2004/7/6	GL-1.6mで湿地状堆積。池の中であったとみられ，遺構・遺物はなし。	8㎡	04T163
90	鳥羽離宮跡・鳥羽遺跡	伏見区中島堀端町62の一部，63の一部，64，65	2004/11/10	敷地のほぼ全域が湿地状堆積。	31㎡	04T290
91	鳥羽離宮跡・鳥羽遺跡	伏見区竹田田中殿町86	2004/12/9	GL-1.5mで金剛心院の北側を通る大路の路面及び南北両側溝を検出。設計変更を指示。本文23頁。	37㎡	04T420
92	下鳥羽遺跡	伏見区下鳥羽西岸川町44，45	2004/8/30	弥生～古墳時代の溝・土壙・住居跡・周溝墓などの遺構を検出。設計変更を指示。本文25頁。	40㎡	04S196

南・桂地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面積	受付番号
93	栖西古墳群	西京区大枝東長町1－233，1－296	2004/4/21・22	試掘調査の結果，今回の計画範囲では，墳丘封土は削平されるものの，石室には抵触しないことを確認。本文28頁。	43㎡	03S451
94	大藪遺跡・長岡京跡	南区久世殿城町555	2004/11/4	GL-1.7mで旧耕土，-1.9mで湿地状堆積。	59㎡	04S351
95	史跡名勝嵐山	右京区嵯峨鳥居本化野町12-29	2004/6/2	GL-1.6mで用途不明の石積遺構を検出。本文17頁。	27㎡	15N034
96	史跡名勝嵐山	西京区嵐山中尾下町	2004/9/21・10/4	調査区西端で中世から近世にかけての平坦地化に伴う造成の痕跡を検出。府道側で中世以後の宅地割を示す東西方向の溝状遺構を検出。	88㎡	16N023
97	史跡名勝嵐山	西京区嵐山樋ノ上町1-71，1-72，1-73，1-74	2004/10/6	GL-1.2mで時期不明の耕作溝を検出。	43㎡	16N037
98	史跡名勝嵐山	西京区嵐山西一川町	2004/6/3	盛土が厚く，遺構・遺物なし。	30㎡	16N004

長岡地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面積	受付番号
99	長岡京左京一条四坊十一町跡	伏見区久我本町11-260	2004/8/25	地山はGL-1.6mで長岡京期の柱穴，弥生時代の遺物包含層を検出。基礎深度が浅いため遺構への影響は軽微。	20㎡	04NG229
100	長岡京跡左京二条四坊一・八町，東土川遺跡	南区久世東土川町376番4	2004/10/13	GL-1.13～1.25mで地山。長岡京期とそれ以前の時期の遺構を検出する。設計変更を指示。	56㎡	04NG324
101	長岡京跡左京五条三坊十三町・六条三坊十六町跡	伏見区羽束師古川町403-1	2004/12/2	GL-1.4～1.8mで地山。自然流路1条を検出。	98㎡	04NG382
102	長岡京跡・淀城跡	伏見区淀池上町38，39合併，151-21，40-1，37，及び35，36-1，36-2の一部	2004/10/14	淀城外堀の外周部分の石垣及び外堀に流れ込む水路の石垣を検出。設計変更を指示。本文32頁。	14㎡	04NG359
103	木津川河床遺跡	伏見区淀生津町地先，八幡市川口地先	2004/12/10	西半は厚い砂の流水堆積を，東半は湿地状の堆積をそれぞれ確認。	65㎡	04S488

報告書抄録

ふりがな	きょうとしないいせきしくつちょうさがいほう
書名	京都市内遺跡試掘調査概報　平成16年度
副書名	
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	北田栄造・馬瀬智光・堀　大輔
編集機関	京都市埋蔵文化財調査センター
所在地	〒602-8435　京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265-1
発行機関	京都市文化市民局
所在地	〒604-8571　京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488
発行年月日	西暦2005年3月31日

所収遺跡名	所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
平安京右京三条一坊四町跡	京都府京都市中京区西ノ京小倉町10-1	26100		35度0分19秒	135度44分39秒	2004/4/26，5/13	58	事務所工場
史跡西寺跡・唐橋遺跡	京都府京都市南区唐橋西寺町52，53	26100	A751 756	34度58分41秒	135度44分27秒	2004/9/8	51	共同住宅
仁和寺院家跡	京都府京都市右京区常盤苔御所町8，8-5～9他	26100	891	35度1分4秒	135度44分53秒	2004/4/19，5/19・21，27	67	宅地造成
史跡名勝嵐山	京都府京都市右京区嵯峨鳥居本化野町12-29	26100	A809	35度1分18秒	135度40分8秒	2004/6/2	27	個人住宅
上京遺跡	京都府京都市上京区寺町通今出川上る三筋目西入北横町360他	26100	224	35度1分43秒	135度46分6秒	2004/2/16	42	寺院

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
平安京右京三条一坊四町跡	都城跡	平安時代	園池遺構	土師器・須恵器・陶器	遺構は保存
史跡西寺跡・唐橋遺跡	寺院跡 集落跡	平安時代 弥生～古墳時代	食堂院南門・回廊		遺構は保存
仁和寺院家跡	寺院跡	平安時代	土壙・溝・柱穴	土師器・軒瓦・陶器	漆紙文書
史跡名勝嵐山	史跡・名勝	中世	石積状遺構	石仏・五輪塔部材	
上京遺跡	都城跡	中世	溝・土壙	土師器・瓦器・陶器	

報告書抄録

ふりがな	きょうとしないいせきしくつちょうさがいほう
書名	京都市内遺跡試掘調査概報　平成16年度
副書名	
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	北田栄造・馬瀬智光・堀　大輔
編集機関	京都市埋蔵文化財調査センター
所在地	〒 602- 8435　京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265-1
発行機関	京都市文化市民局
所在地	〒604- 8571　京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488
発行年月日	西暦2005年３月31日

所収遺跡名	所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
鳥羽離宮跡・鳥羽遺跡	京都府京都市伏見区竹田田中殿町86	26100	1166 1167-01	34度 57分 4秒	135度 45分 9秒	2004/12/9	37	倉庫
下鳥羽遺跡	京都府京都市伏見区下鳥羽西芦川町44, 45	26100	1170	34度 56分 21秒	135度 45分 4秒	2004/8/30	40	工場
福西古墳群	京都府京都市西京区大枝東長町1-233, 1-296	26100	998	34度 57分 42秒	135度 40分 59秒	2004/4/21 ・22	43	駐車場拡幅
長岡京跡・淀城跡	京都府京都市伏見区淀池上町38, 39合併, 151-21, 40-1他	26100	1191	34度 54分 5秒	135度 43分 25秒	2004/10/14	14	宅地造成

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
鳥羽離宮跡・鳥羽遺跡	離宮跡 集落跡	平安時代 弥生～飛鳥時代	北大路溝	瓦片	遺構は保存
下鳥羽遺跡	集落跡	弥生～古墳時代	竪穴住居跡・溝・土壙	弥生土器・須恵器	遺構は保存
福西古墳群	古墳	古墳時代	墳丘封土		
長岡京跡・淀城跡	都城跡 平城跡	平安時代 江戸時代	石垣		遺構は保存

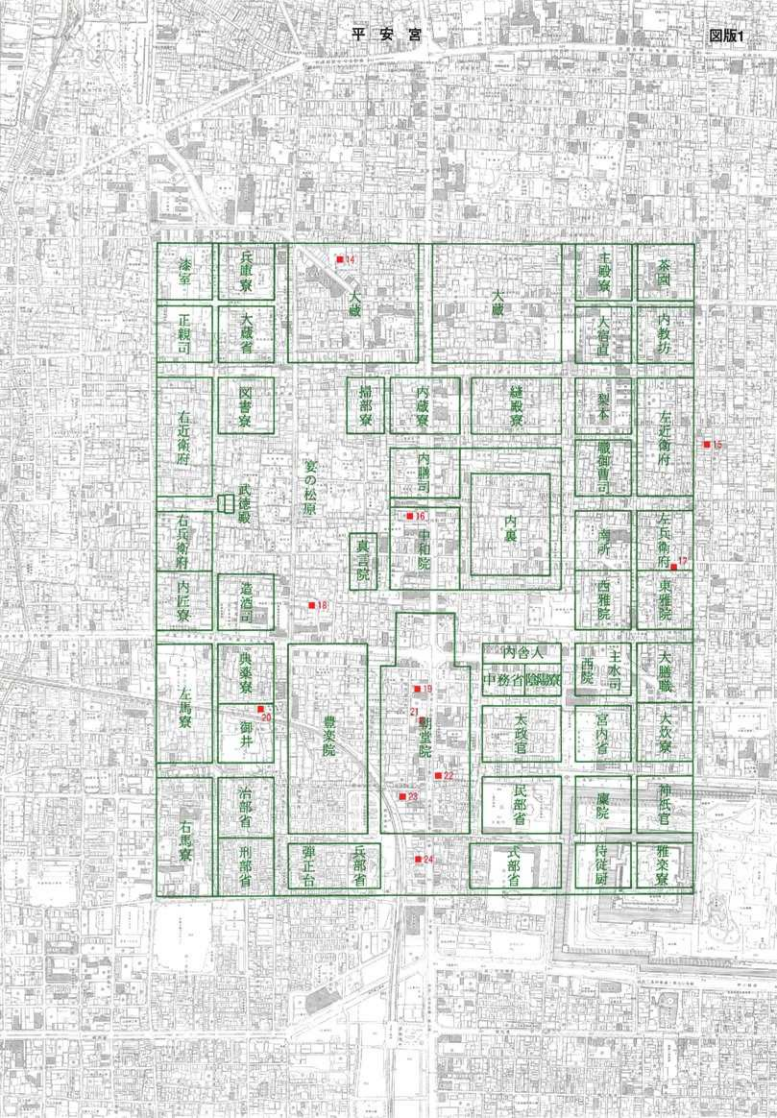
図　　版

凡　例

平成16年試掘調査地点

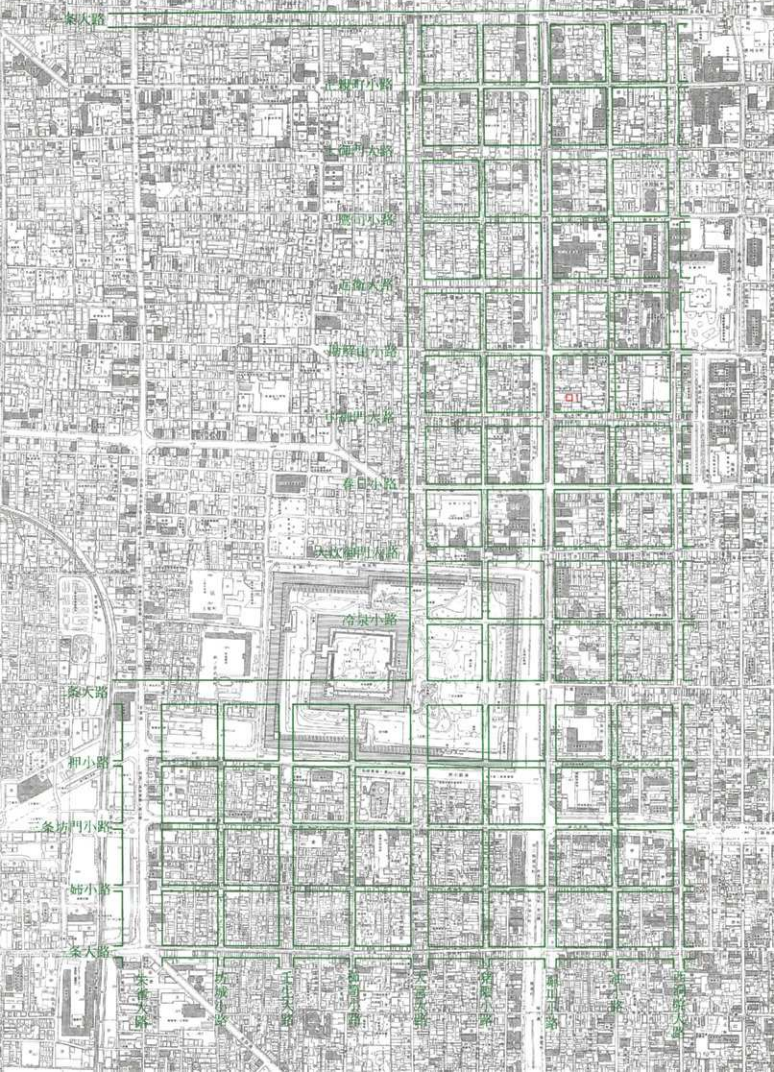
□　1月～3月　　■4月～12月

－－－－－　遺跡範囲

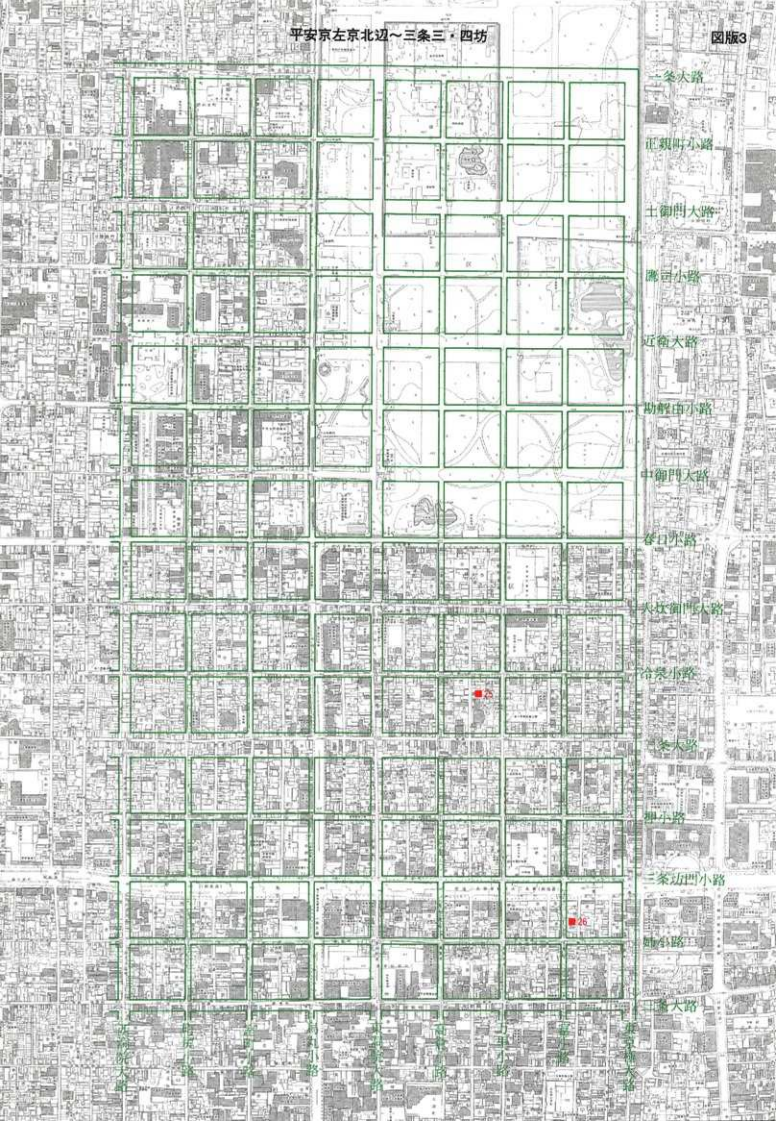

平安宮
漆室
兵庫寮
正親司
大蔵省
図書寮
右近衛府
武徳殿
右兵衛府
内匠寮
造酒司
左馬寮
典薬寮
御井
治部省
右馬寮
刑部省
玄の松原
大蔵
掃部寮
内蔵寮
内膳司
中和院
真言院
造酒司
豊楽院
弾正台
兵部省
朝堂院
大膳
縫殿寮
内裏
内舎人
中務省
陰陽寮
太政官
民部省
式部省
主殿寮
大宿直
梨本
蔵御所司
海所
西雅院
西院
主水司
宮内省
廉院
侍従厨
茶園
内教坊
左近衛府
左兵衛府
東雅院
大膳職
大炊寮
神祇官
雅楽寮
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24

図版2

平安京左京北辺～三条一・二坊

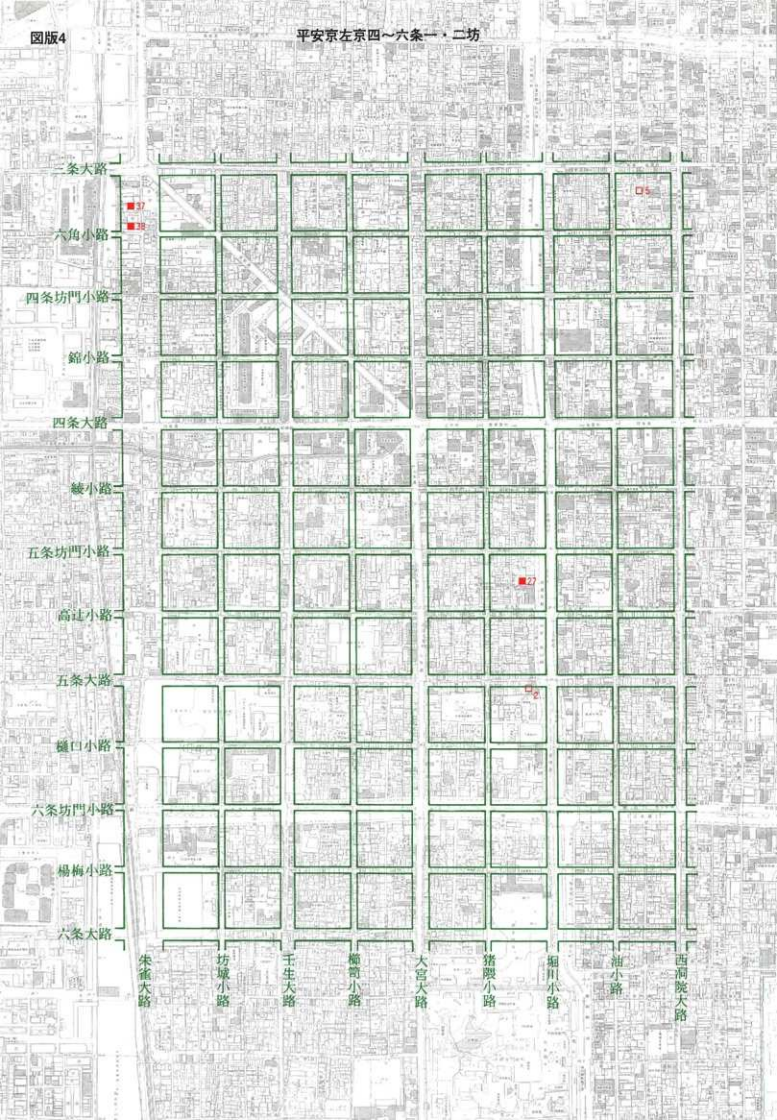


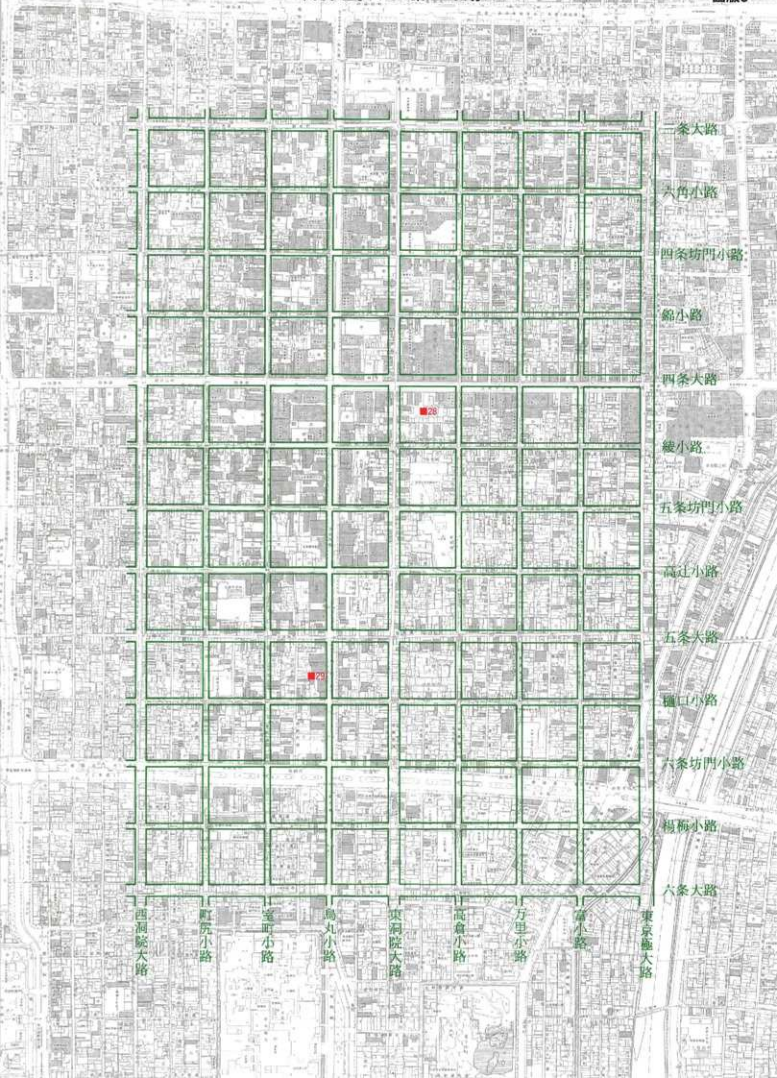
平安京左京北辺～三条三・四坊



図版4

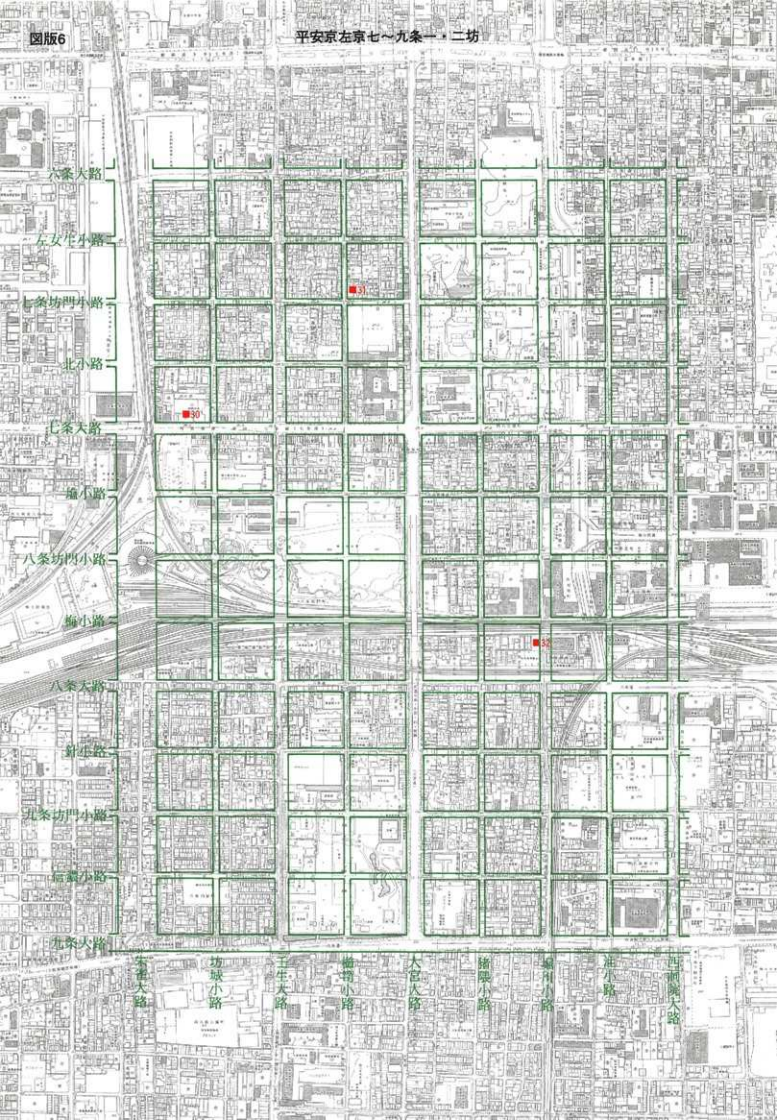
平安京左京四～六条一・二坊




二条大路
六角小路
四条坊門小路
錦小路
四条大路
綾小路
五条坊門小路
高辻小路
五条大路
樋口小路
六条坊門小路
楊梅小路
六条大路
西洞院大路
町尻小路
室町小路
烏丸小路
東洞院大路
高倉小路
万里小路
富小路
東京極大路
28
29

図版6

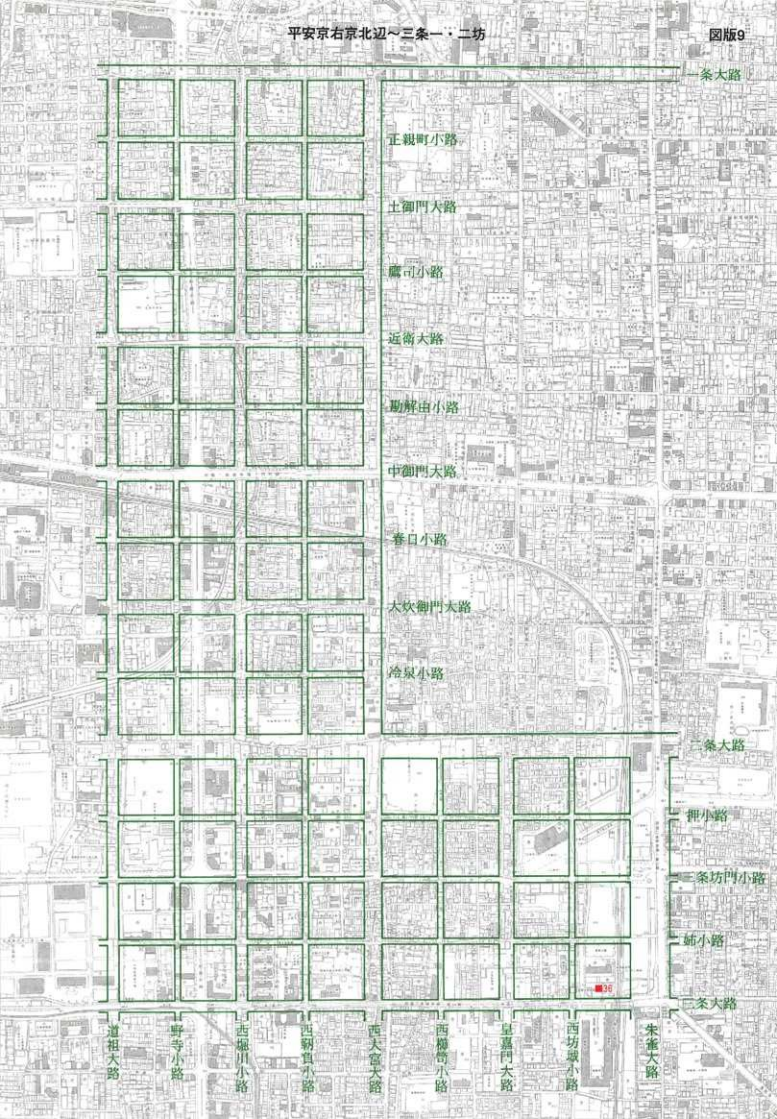
平安京左京七～九条一・二坊



平安京左京七～九条三・四坊

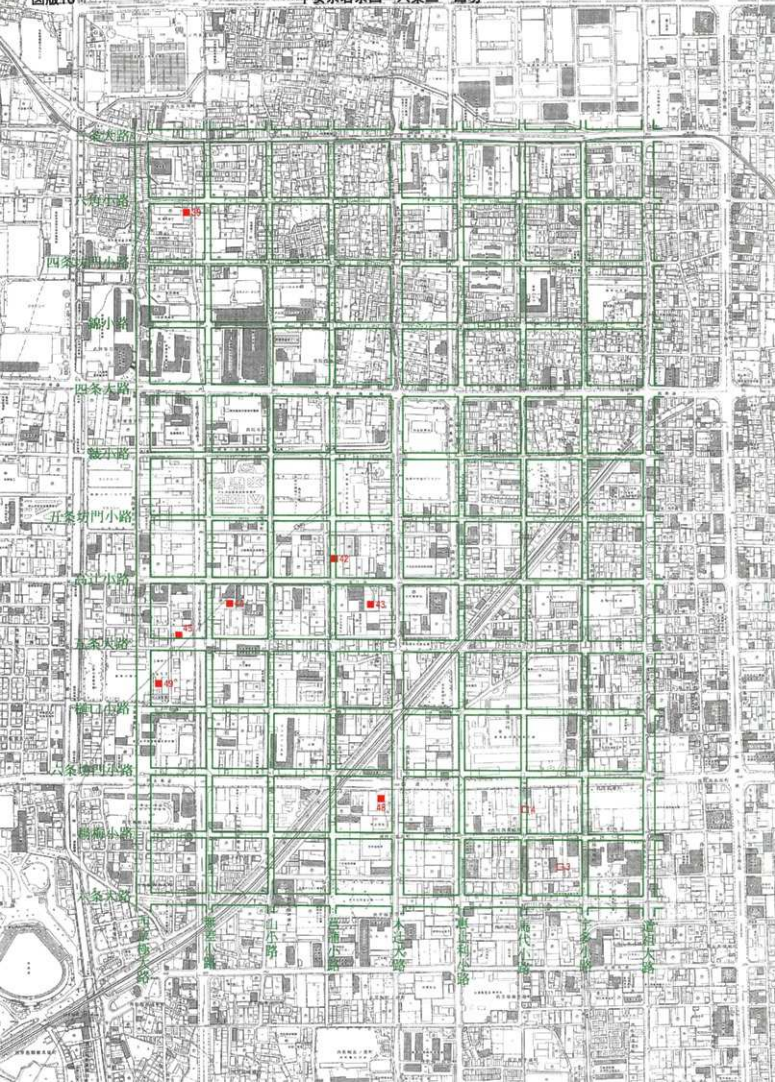
図版8

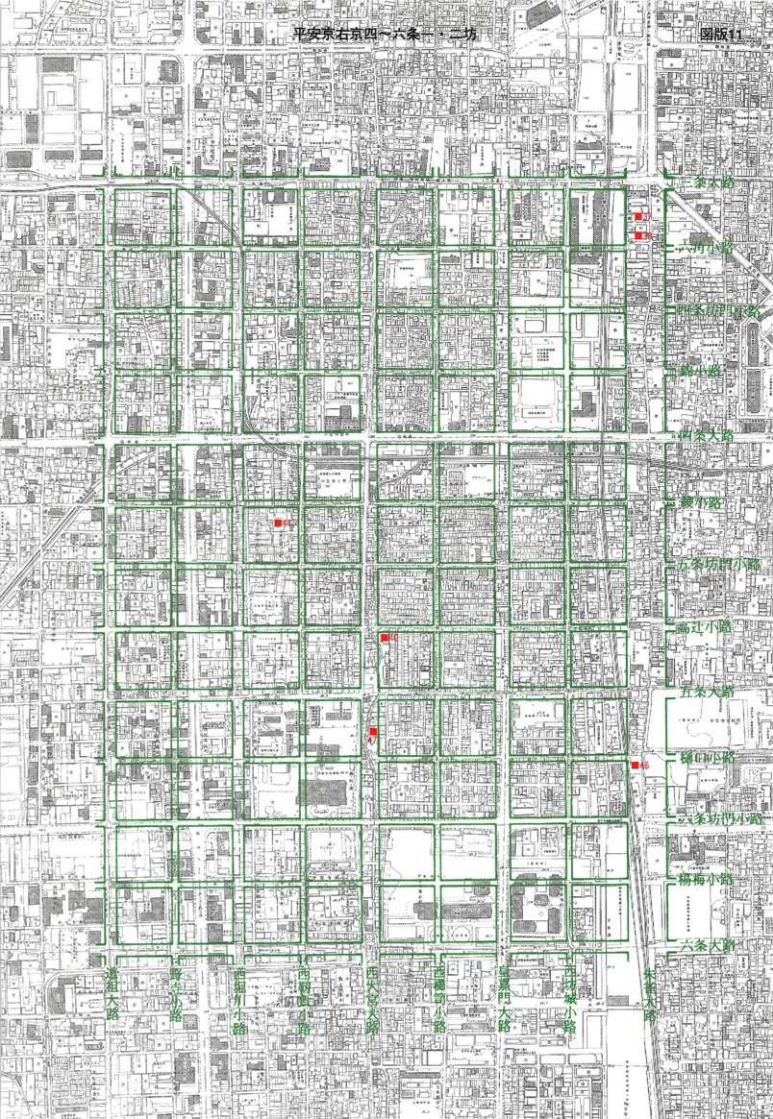
平安京右京北辺～三条二・四坊


一条大路
正親町小路
土御門大路
鷹司小路
近衛大路
勘解由小路
中御門大路
春日小路
大炊御門大路
冷泉小路
二条大路
押小路
三条坊門小路
姉小路
三条大路
道祖大路
野寺小路
西堀川小路
西朝倉小路
西大宮大路
西櫛笥小路
皇嘉門大路
西坊城小路
朱雀大路
36

図版10

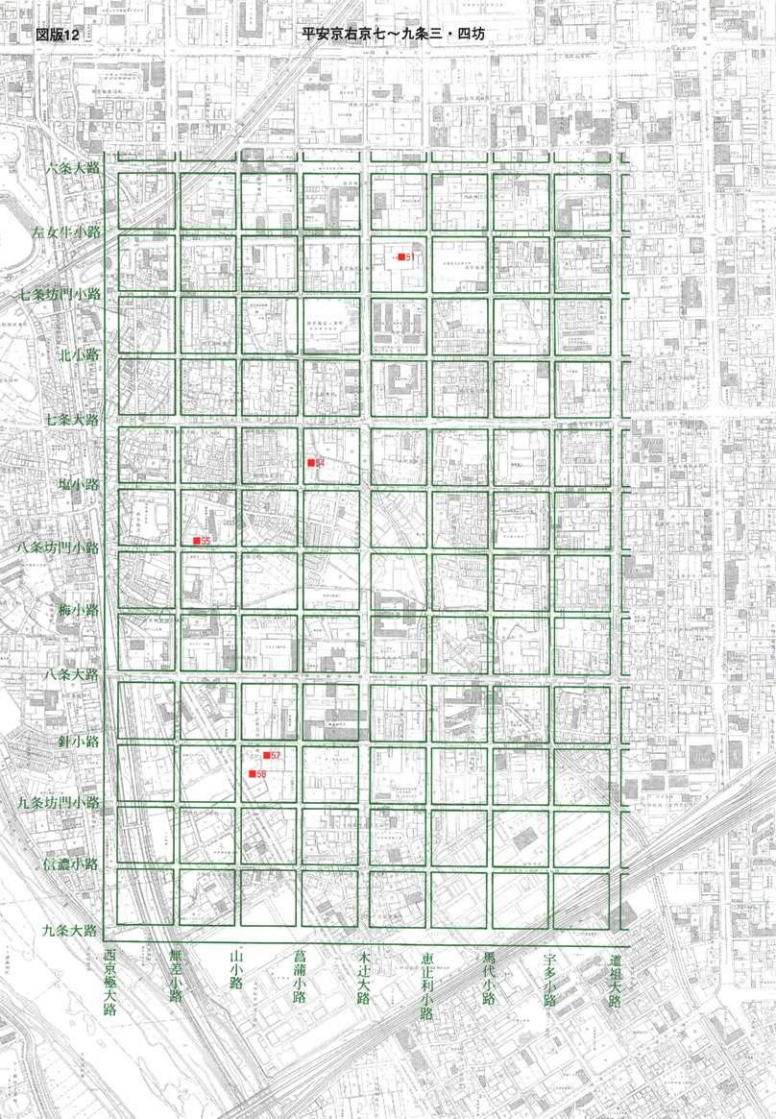
平安京右京四～六条三・四坊

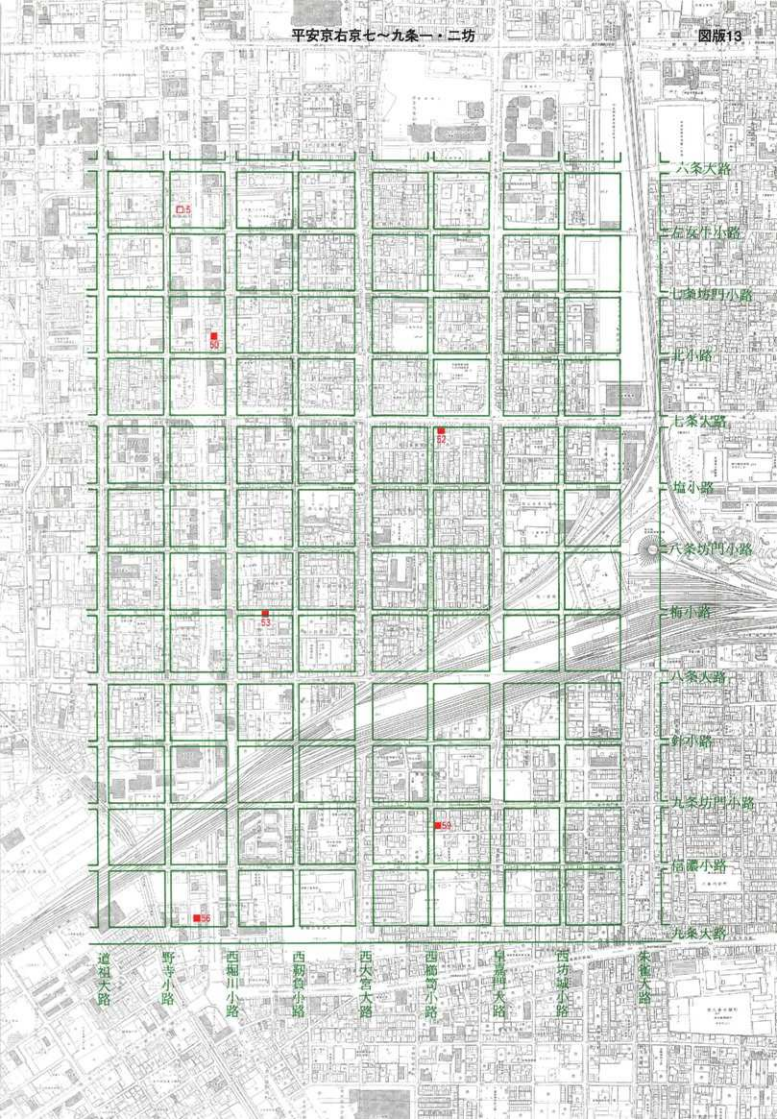



東大路
六角小路
四条坊門小路
錦小路
四条大路
夷小路
五条坊門小路
高辻小路
五条大路
樋口小路
六条坊門小路
梅小路
六条大路
道祖大路
野寺小路
西堀川小路
西靫負小路
西大宮大路
西洞院小路
西堀川大路
西市小路
朱雀大路

図版12

平安京右京七～九条三・四坊




六条大路
右京七条一坊
七条坊門小路
北小路
七条大路
塩小路
八条坊門小路
梅小路
八条大路
針小路
九条坊門小路
楊梅小路
九条大路
道祖大路
野寺小路
西堀川小路
西朱雀小路
西大宮大路
西洞院小路
西京極大路
西坊城小路
朱雀大路
5
50
52
53
54
55

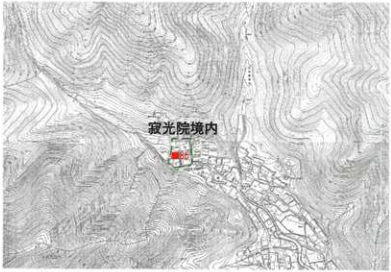
図版14

史跡名勝嵐山
98
96
97

草木町遺跡
8
村ノ内町遺跡
仁和寺院家跡
63
大秦馬塚町遺跡
62
91
66
常盤東ノ町古墳群

95
史跡名勝嵐山
清涼寺境内
7

64
御堂ヶ池古墳群


寂光院境内
65

福西古墳群
93

植物園北遺跡
66

図版15

相国寺旧境内
上京遺跡
上京遺跡
公家町遺跡
平安宮跡
平安京跡

大宮北山ノ前瓦窯跡

大報恩寺境内
北野天満宮境内

今宮神社
史跡大徳寺境内
御土居跡

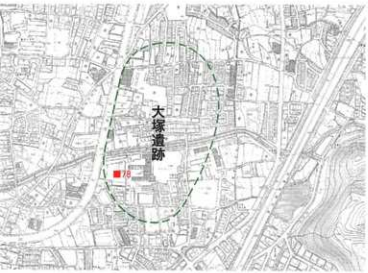
平安京跡
法興院跡

図版16

山科本願寺南殿跡

山科本願寺跡

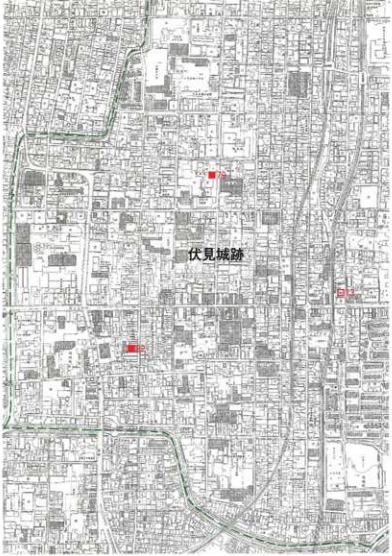
中臣遺跡

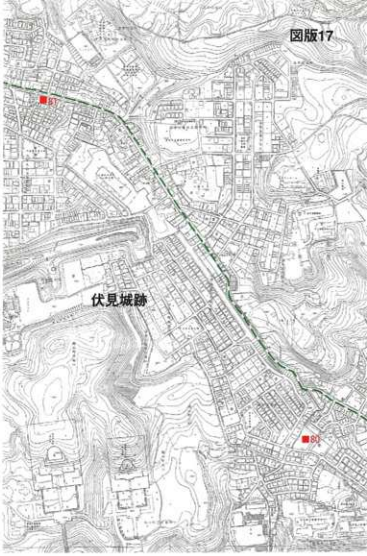

大塚遺跡

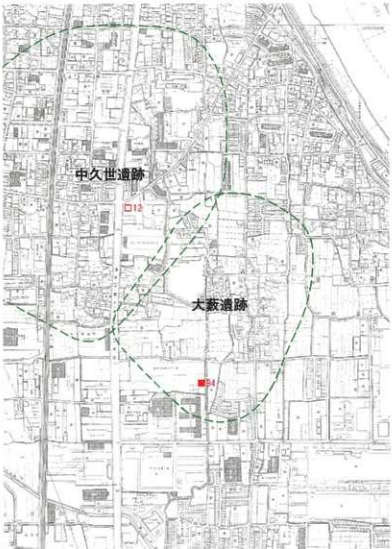
史跡随心院境内
史跡醍醐寺境内

おうせんどう廃寺跡
谷口遺跡
がんぜんどう廃寺跡

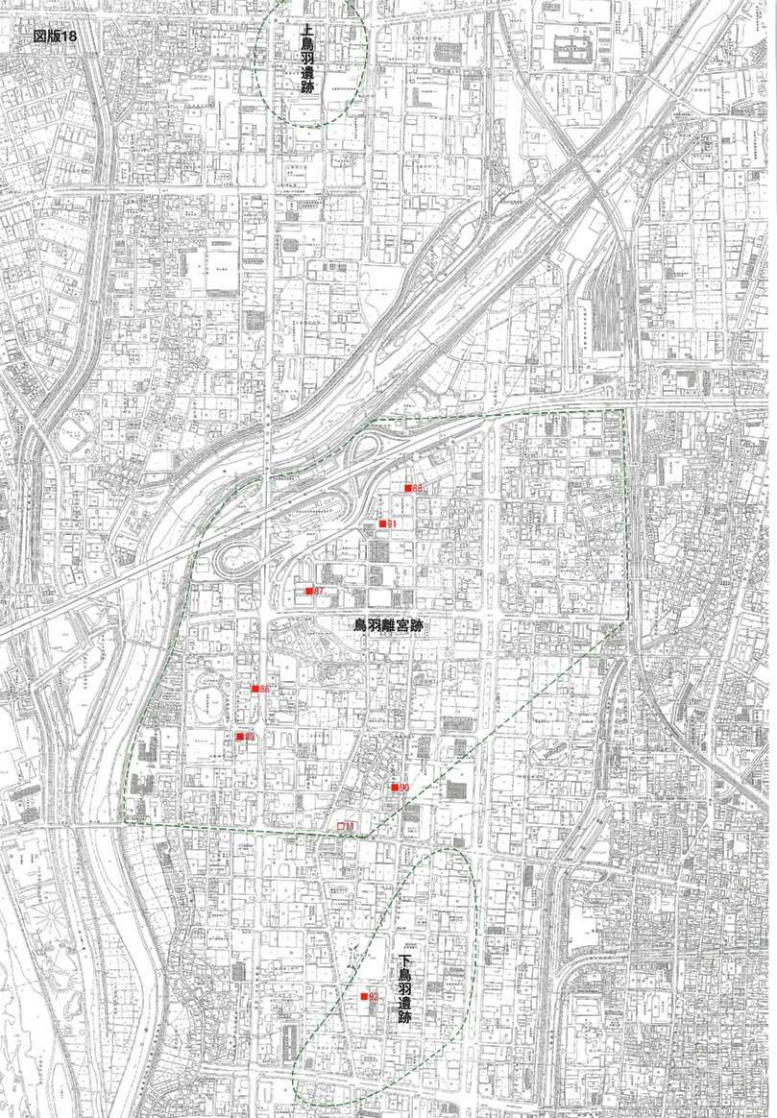
図版17

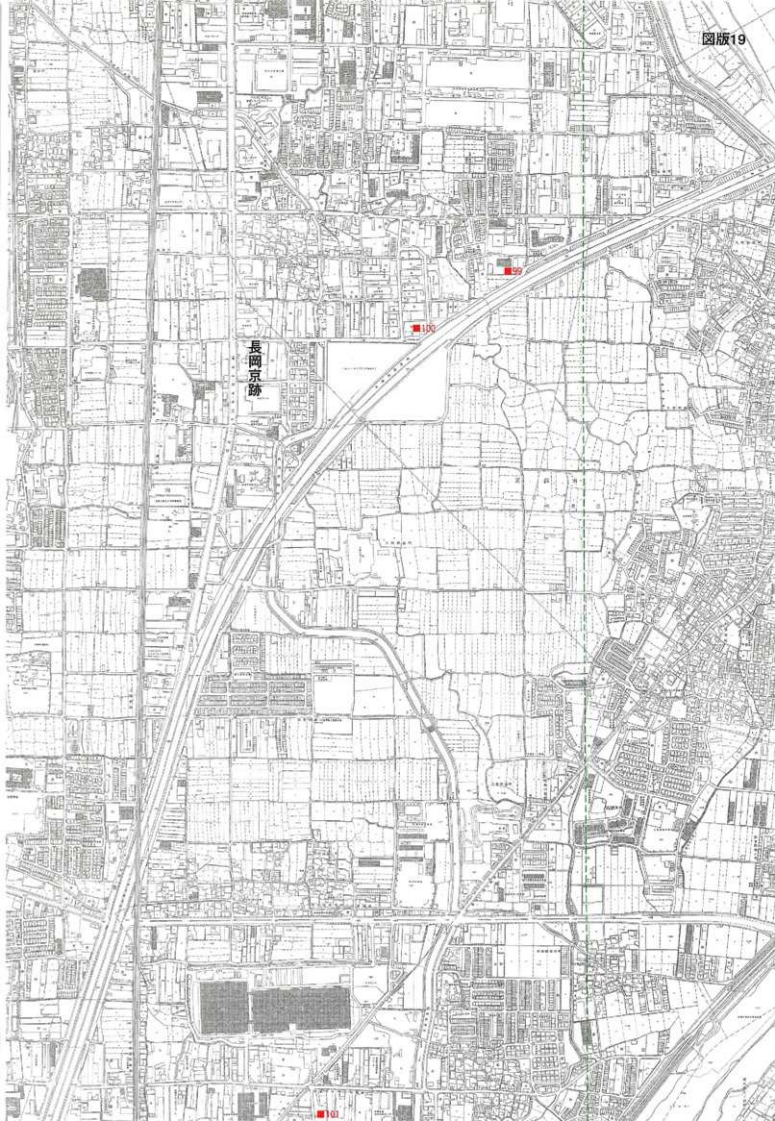






図版18




長岡京跡
99
100
101

京都市内遺跡試掘調査概報

平成16年度

発行日　2005年３月31日
京都市印刷物 第163148号
発　行　京都市文化市民局
編　集　京都市埋蔵文化財調査センター
住　所　京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265-1
TEL.（075）441-5261
印　刷　泰和印刷株式会社　TEL.（075）605-6800

時を超え 美しく
ひと輝く歴史都市・京都